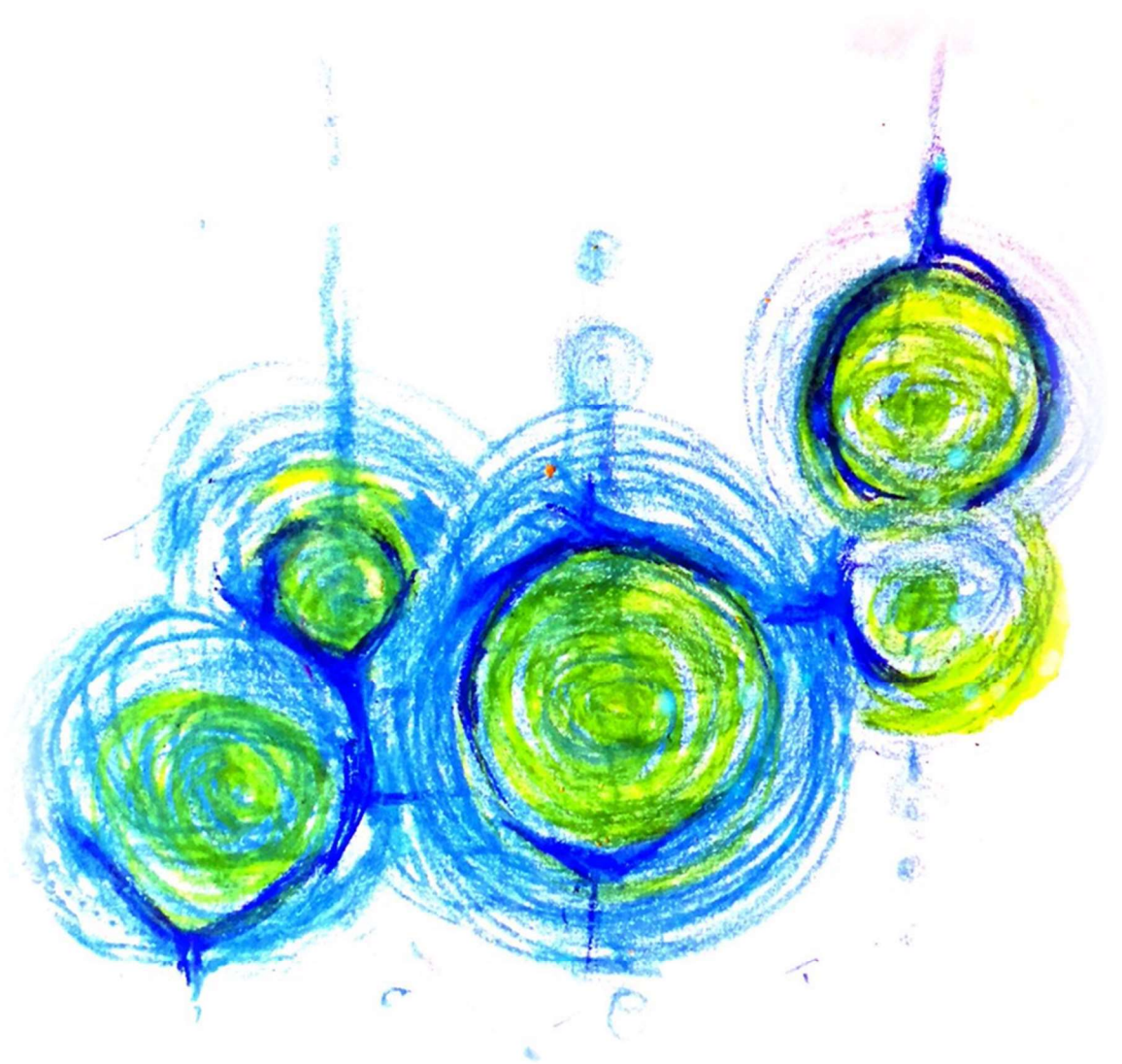


# Total Rehabilitation Research

Printed 2018.0630    ISSN2189-4957

Published by Asian Society of Human Services

*June 2018*  
VOL. **6**



Mamiko OTA  
[Physalis alkekengi]

ORIGINAL ARTICLE

# IN-Child Record に基づいた SLD 傾向のある IN-Child に対する指導法の分析

太田 麻美子<sup>1)2)</sup> 井上 智晴<sup>1)</sup> 金 彦志<sup>3)\*</sup>

- 1) 琉球大学教育学部  
2) 東北大学大学院医学系研究科  
3) 宮城学院女子大学, 学生相談・特別支援センター

<Key-words>

IN-Child, IN-Child Record, 限局性学習症, 指導法

\*責任著者: 622totoro@gmail.com (金 彦志)

Total Rehabilitation Research, 2018, 6:45-72. © 2018 Asian Society of Human Services

## I. 問題と目的

IN-Child(Inclusive Needs Child)とは、包括的教育を必要とする全ての子どもを指す用語である(韓・太田・權, 2016)。また、IN-Child の QOL 向上の観点からニーズを検討する為のツールとして、IN-Child Record が開発された(韓・太田・權, 2016)。

現在、包括的教育の対象として教育現場で課題となっている IN-Child として、学習障害(Specific Learning Disorder: 以下、SLD)と類似した傾向のある子ども達が挙げられている。例にとると、自分の名前の 6 文字程度のひらがなしか読むことができない子ども(阿部・有川・長谷川, 2015)や、5 年生で 3 桁の繰り上がりが難しい子ども(山元・平嶋, 2013)などが挙げられる。それらの事例の中には、医療機関において SLD と診断されている子どももいるが、診断されていないものの SLD の傾向がある子どもとして、指導における課題となっている。韓・矢野・小原ら(2017)は、IN-Child Record を用いて、領域である「読む」「書く」「計算する」「推論する」を SLD 傾向モデルとして設定し、パス解析及び構造方程式モデリング(Structural Equation Modeling: SEM)を使用して、SLD 傾向が IN-Child Record の他の領域から影響を受けていないことを証明した。

SLD 傾向の IN-Child に関しては、教育現場では多くの教育実践が取り組まれている。論文や学会発表などにおいても様々な実践報告がなされているが、その指導方法に関しては典型化されていない。SLD 傾向の IN-Child は教育現場で多く見られ課題となっていることから、指導方法に関して典型化することは、今後の IN-Child の指導の方向性を決める材料になるだけでなく、指導法を開発する際の重要な資料になると考えられる。

そこで、本研究では IN-Child Record を用いて、論文・学会発表における指導実践を IN-Child Record の領域と照らし合わせて分析することで、SLD 傾向のある IN-Child に対して教育現場で行われている指導・支援方法を典型化し、課題を明らかにすることを目的とする。

Received  
March 7, 2018

Revised  
April 19, 2018

Accepted  
April 27, 2018

Published  
June 30, 2018

## Ⅱ．方法

### 1. 資料抽出方法

#### 1) 文献抽出

表 1 に記載する資料の中から、資料選定基準に基づいて抽出を行った。なお、1 つの論文で 2 つ以上の事例を取り扱っている資料については、対象児の文中の表記を記載し区別した。

表 1 文献抽出の対象

| 対象                                                                                   | 説明                                                                                                       |
|--------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 特殊教育学研究                                                                              | 特殊教育学会が編集する雑誌「特殊教育学研究」<br>50(1)～(5)、51(1)～(5)、52(1)～(5)、53(1)～(2)                                        |
| 特別支援教育の一種免許状を取得することの出来る大学(1)一種免許状(大学卒業程度)のうち、インターネットでリポジトリを開<br>設し、閲覧することができる大学の研究紀要 | 文部科学省が発表している「特別支援学校教諭の免許資格を取得することのでき<br>る大学 (1)一種免許状(大学卒業程度)」のうち、インターネットでリポジトリを開<br>設し、閲覧することができる大学の研究紀要 |
| Google Scholar,<br>CiNii, J-STAGE                                                    | 「SLD and 指導」「SLD and 指導法」で検索した資料の中から、資料選定基準<br>を満たした論文                                                   |

#### 2) 資料選定基準

- ・インクルーシブ教育に関する答申(文部科学省, 2012)が発表された 2012 年以降であること
- ・対象となる児童生徒が小学生もしくは中学生であること
- ・SLD の診断が記載されているもの、または記載されている児童生徒の実態を IN-Child Record の領域で対応させた際に「読む」、「書く」、「計算する」、「推論する」のいずれかに困難をもつ IN-Child の事例であると推測できるもの

### 2. 分析方法

教育実践事例を分析する際には、対象児童生徒の実態と指導・支援方法の 2 点に分け、IN-Child Record の領域を対応させて分析を行った。また、指導・支援に関する評価の実態も分析した(表 2)。

表 2 分析対象事例の分析項目

| 1 | 児童対象生徒  | 児童生徒について              | ① 学年                           | ② 性別                            | ③ 診断と服薬                   |
|---|---------|-----------------------|--------------------------------|---------------------------------|---------------------------|
|   |         | 児童生徒の実態               | ① 身体面<br>身体の状態、姿勢・運動・動作        | ② 情緒面<br>不注意、多動性・衝動性、こだわり、自己肯定感 | ③ 生活面<br>社会生活機能、コミュニケーション |
|   |         |                       | ④ 学習面<br>聞く、話す、読む、書く、計算する、推論する |                                 |                           |
| 2 | 指導・支援方法 | 指導・支援                 | ① 身体面<br>身体の状態、姿勢・運動・動作        | ② 情緒面<br>不注意、多動性・衝動性、こだわり、自己肯定感 | ③ 生活面<br>社会生活機能、コミュニケーション |
|   |         |                       | ④ 学習面<br>聞く、話す、読む、書く、計算する、推論する |                                 |                           |
| 3 | 実態把握の方法 | 実態把握について              | ① 記載されている                      | ② 記載されていない                      |                           |
|   |         | 客観的な評価ツール<br>を使用しているか | ① 使用している →何を使用しているか            | ② 使用していない →把握はどのように行っているか       |                           |

### Ⅲ. 結果

Google Scholar、CiNii、J-Stage で 2012 年以降に発行された論文のみを抽出するよう条件付けをし、「LD and 指導」で検索した結果、合計 7,134 件(Google Scholar:6,040 件、CiNii:485 件、J-Stage:609 件)、「LD and 指導法」で検索した結果、合計 357 件(Google Scholar:304 件、CiNii:24 件、J-Stage:29 件)、「学習障害 and 指導」で検索した結果、合計 2057 件(Google Scholar:1480 件、CiNii:359 件、J-Stage:218 件)、「学習障害 and 指導法」で検索した結果、合計 283 件(Google Scholar:235 件、CiNii:21 件、J-Stage:27 件)が該当した。その中から資料選定基準を満たす 52 件の資料(79 事例)を対象に、指導・支援方法の分析を行った。分析を行う際は、それぞれの事例に通し番号をつけ、分析を行った。

#### 1. 対象児童生徒の分析

分析対象資料を、タイトル、著者、対象児に分けて分析した。分析した結果を表 3 に示す。対象児に関しては、性別、学年、在籍、診断・服薬、論文中に記載されていた児童生徒を IN-Child とし、実態を IN-Child Record の領域で対応させ、どの領域に困難をもつのかを分析した。また、1 つの論文で 2 つ以上の事例を取り扱っている資料については、対象児の文中の表記を記載し区別した。

##### 1) SLD 傾向のある IN-Child の基本情報

対象児童生徒の性別は男子 71 件、女子 24 件、表記なし 18 件と男子が多かった。集団指導を行っており、かつ個別の実態が表記されていない分析対象資料 54(男子 7 名、女子 3 名)と分析対象資料 55(男子 23 名、女子 3 名)については、それぞれの性別に分けて含めている。

学年は、小学生を対象にした事例が 67 件、中学生を対象にした事例が 12 件であった。在籍については、通常の学級に在籍している事例が 34 件、通級指導教室を受けている事例が 29 件、特別支援学級が 3 件、未記入が 13 件であった。

診断の有無については、何らかの診断のある事例が 23 件、診断のない事例が 56 件であった。分析対象資料 54 と分析対象資料 55 については個別の実態の表記がされていないため、それぞれを 1 件の事例として数に含めた。SLD の診断のある IN-Child が 12 件<sup>1)2)6)7)17)28)32)42)61)62)72)74)</sup>であった。

また、SLD 以外の診断のある IN-Child が 13 件<sup>8)9)10)11)14)15)16)17)30)33)34)44)74)</sup>、ADHD の診断のある IN-Child が 10 件<sup>8)9)10)11)14)15)16)17)33)74)</sup>、うち服薬している事例が 1 件<sup>74)</sup>、ASD(PDD、アスペルガー症候群を含む)の診断のある IN-Child が 5 件<sup>11)16)30)33)34)</sup>、であった。その他、てんかん(服用有り)の診断を受けている事例が 1 件<sup>44)</sup>、他にも、外斜視や斜視、網膜異常などの表記が見られる事例もあった。

表3 SLD 傾向のある IN-Child の基本情報

|    |           |                                                   |
|----|-----------|---------------------------------------------------|
| 性別 | 男子        | 71 件<br>(分析対象資料 54 の男子 7 名、分析対象資料 55 の男子 23 名を含む) |
|    | 女子        | 24 件<br>(分析対象資料 54 の女子 3 名、分析対象資料 55 の女子 3 名を含む)  |
|    | 未記入       | 18 件                                              |
| 学年 | 小学校       | 67 件                                              |
|    | 中学校       | 12 件                                              |
| 在籍 | 通常の学級     | 34 件                                              |
|    | 通級指導教室    | 29 件                                              |
|    | 特別支援学級    | 3 件                                               |
|    | 記載なし      | 13 件                                              |
|    | 未記入       | 7 件                                               |
| 診断 | 何らかの診断の有無 | 23 件                                              |
|    | SLD       | 13 件                                              |
|    | ADHD      | 10 件                                              |
|    | ASD       | 5 件                                               |
|    | その他       | てんかん、外斜視、斜視、網膜異常                                  |

## 2. IN-Child の実態と IN-Child Record の項目の対応分析

IN-Child の実態と IN-Child Record の項目の対応分析の結果を表 4 に示す。

対象児実態と IN-Child Record の項目を対応分析させた表は、それぞれの領域に対応させた際に当てはまる領域について○を記入している。また、原因面の身体の状態は「身」、姿勢・運動・動作は「姿」、不注意は「不」、多動性・衝動性は「多」、こだわりは「こ」、自己肯定感は「自」で表している。結果面は、社会生活機能は「社」、コミュニケーションは「コ」、聞くは「聞」、話すは「話」、読むは「読」、書くは「書」、計算するは「計」、推論するは「推」で表している。

### 1) 身体面に困難を抱える SLD 傾向のある IN-Child の実態

「身体の状態」に困難を抱える IN-Child の事例は 8 件であった。うち、身体疲労や腹痛・頭痛を訴えるなどがみられる事例が 5 件<sup>26)32)50)61)73)</sup>、母子密着が見られる事例が 2 件<sup>74)75)</sup>であった。

「姿勢・運動・動作」に困難を抱える IN-Child の事例は 6 件であった。手先の不器用さについて表記している事例が 3 件<sup>8)28)29)</sup>、姿勢の崩れについて表記している事例が 2 件<sup>50)76)</sup>、発達性強調運動障害の診断を受けている事例が 1 件<sup>30)</sup>であった。

### 2) 情緒面に困難を抱える SLD 傾向のある IN-Child の実態

「不注意」に困難を抱える IN-Child の事例は 25 件であった。うち、ADHD の診断を受けている事例が 10 件<sup>8)9)10)11)14)15)16)17)33)74)</sup>であった。また、集中力の持続に困難を抱えている事例が 6 件<sup>3)50)58)61)76)77)</sup>、離席が見られる事例が 2 件<sup>37)72)</sup>であった。

「多動性・衝動性」に困難を抱える IN-Child の事例は 15 件であった。うち、ADHD の診断を受けている事例が 10 件<sup>8)9)10)11)14)15)16)17)33)74)</sup>であった。また、ADHD 傾向の表記がある事例が 2 件<sup>18)32)</sup>、多動傾向の表記がある事例<sup>34)</sup>、自分の思いが伝わらないと暴力的になる<sup>65)</sup>、いつも体のどこかが動いていて落ち着かない<sup>75)</sup>と表記されている事例があった。

「こだわり」に困難を抱える IN-Child の事例は 9 件であった。うち、ASD の診断を受け

ている事例が 6 件 <sup>11)16)24)30)33)34)</sup>であった。ASD の診断が表記されている事例の他に、興味のあるキャラクターの話を一方的にする <sup>31)</sup>、自分が興味ある事柄に対しての集中力 <sup>40)</sup>、自分で一度思ったことや決めたことをその通りに進めようとする <sup>73)</sup>と表記されている事例であった。

「自己肯定感」に困難を抱える IN-Child の事例は、25 件であった。作文のある日は登校しながら、算数への関心・意欲・態度が低い、漢字の読み書きに強い拒否、など苦手なことに対する課題拒否の表記がされている事例が 12 件 <sup>28)31)35)37)38)39)48)61)65)69)72)76)</sup>、「おればかやもん。どうせダメやもん」が口癖、自己に対して自信が持てない、など自信の無さに関する表記がされている事例が 9 件 <sup>2)8)32)35)42)57)59)66)74)</sup>であった。

### 3) 生活面に困難を抱える SLD 傾向のある IN-Child の実態

「社会生活機能」に困難を抱える IN-Child の事例は、9 件であった。うち、担任の指示に従えず授業を中断させる、私語が多く声大きい、など授業中のルールに関する表記がされている事例が 4 件 <sup>14)15)37)77)</sup>、友達はほとんどいない、友人とのトラブルが多い、などの友人関係に関する表記のあった事例が 3 件 <sup>8)11)65)</sup>であった。

「コミュニケーション」に困難を抱える IN-Child の事例は、11 件であった。うち、ASD の診断を受けている事例が 6 件 <sup>11)16)24)30)33)34)</sup>であった。ASD の診断が表記されている事例の他に、同じ話を繰り返す <sup>31)</sup>、発言はあまりしない <sup>75)</sup>、などが表記されている事例があった。

### 4) 学習面に困難を抱える SLD 傾向のある IN-Child の実態

「聞く」に困難を抱える IN-Child の事例は、6 件であった。一斉授業では、教師の話を聞くことができない事例 <sup>12)</sup>や指示や説明が多くなると内容を覚えきれない事例 <sup>41)</sup>があった。

「話す」に困難を抱える IN-Child の事例は、9 件であった。うち、構音障害の診断を受けている事例が 1 件 <sup>14)</sup>、その他に発音の不明瞭さを抱える事例 <sup>28)</sup>や語彙に少なさを抱える事例 <sup>51)</sup>、順を追って話をすることが苦手という事例 <sup>75)</sup>があった。

「読む」に困難を抱える IN-Child の事例は 50 件、うち、読み書き両方に困難を抱える IN-Child の事例は 43 件 <sup>1)2)3)4)6)8)9)10)11)12)14)15)16)17)26)27)28)30)31)33)34)36)38)40)41)42)43)49)50)51)54)55)62)63)64)65)69)70)72)74)76)77)78)</sup>であった。その他には、自分の名前 6 文字しか読めない事例 <sup>53)</sup>、音韻意識の問題を抱えている事例 <sup>68)</sup>などであった。

「書く」に困難を抱える IN-Child の事例は 62 件であった。「読む」と同様に、そのうち、読み書き両方に困難を抱える IN-Child の事例は 43 件であった。その他には、判読困難な文字を書く事例 <sup>29)</sup>、ひらがなとかたかな混同して書く事例 <sup>46)</sup>、ノートを写すのに時間がかかる事例 <sup>59)</sup>などであった。

「計算する」に困難を抱える IN-Child の事例は 24 件、うち、計算する、推論するの両方に困難を抱える IN-Child の事例は 15 件 <sup>5)10)11)17)18)19)32)40)45)47)48)74)75)77)79)</sup>であった。LD の診断を受けている事例が 2 件 <sup>17)74)</sup>、掛け算九九に困難を抱える事例が 6 件 <sup>3)4)21)41)69)75)</sup>であった。「推論する」に困難を抱える IN-Child の事例は 20 件であった。「計算する」と同様に、そのうち、計算する、推論するの両方に困難を抱える IN-Child の事例は 15 件であった。LD の診断を受けている事例が 2 件 <sup>17)74)</sup>、その他に、文章理解には困難 <sup>8)</sup>、カテゴリー化ができない <sup>51)</sup>、いくつかの条件を対応させることに弱さがある <sup>76)</sup>、といった表記がされている事例があった。

表 4-1 SLD 傾向のある IN-Child の実態と IN-Child Record の対応分析の結果

| 発<br>行<br>年 | 著<br>者       | 通し<br>番号 | 文中の<br>表記 | 性別<br>学年  | 在籍    | 対象児<br>IN-Child Recordの項目 |   |   |   |   |   |   |   |   |   | 診断と<br>服薬 |   |   |   |                |
|-------------|--------------|----------|-----------|-----------|-------|---------------------------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|-----------|---|---|---|----------------|
|             |              |          |           |           |       | 身                         | 姿 | 不 | 多 | こ | 自 | 社 | コ | 聞 | 話 |           | 読 | 書 | 計 | 推              |
| 2012        | 後藤           | 1)       | 一         | 男<br>小3   | 通常の学級 |                           |   |   |   |   |   |   |   |   |   |           | ○ | ○ |   | LD             |
|             | 野村           | 2)       | 一         | 男<br>小4   |       |                           |   |   |   |   | ○ |   |   |   |   |           | ○ | ○ |   | 読み書き障害<br>発達遅滞 |
|             | 藤平           | 3)       | 一         | 女<br>中1   | 通常の学級 |                           |   | ○ |   |   |   |   |   |   |   |           | ○ | ○ | ○ |                |
|             | 今西・芳倉<br>川西ら | 4)       | 事例X       | 一<br>小1   | 通級指導  |                           |   |   |   |   |   |   | ○ |   |   |           | ○ | ○ | ○ |                |
|             |              | 5)       | 事例Y       | 一<br>小2~3 | 通級指導  |                           |   |   |   |   |   |   | ○ | ○ |   |           |   |   | ○ | ○              |
|             | 朝来・衛藤        | 6)       | 一         | 男<br>小6   | 通級指導  |                           |   |   |   |   |   |   |   |   |   |           | ○ | ○ |   | LD             |
|             | 川上・山口        | 7)       | 一         | 男<br>中2   | 通常の学級 |                           |   | ○ |   |   | ○ |   |   |   |   |           |   | ○ |   | LD             |
|             | 岩永・綿巻<br>笹山  | 8)       | A児        | 男<br>小3   | 通常の学級 |                           | ○ | ○ | ○ |   | ○ |   |   |   |   |           | ○ | ○ | ○ | ADHD           |
|             |              | 9)       | B児        | 男<br>小3   | 通常の学級 |                           |   | ○ | ○ |   |   |   |   | ○ |   |           | ○ | ○ | ○ | ADHD           |
|             | 宇田川・松<br>本   | 10)      | 一         | 一<br>小6   | —     |                           |   | ○ | ○ |   |   |   |   | ○ |   |           | ○ | ○ | ○ | ADHD           |
| 2013        | 富永・池本<br>石川ら | 11)      | 対象児A      | 男<br>小2   | 通級指導  |                           |   | ○ | ○ | ○ |   | ○ |   |   |   |           | ○ | ○ | ○ | ADHD・ASD       |
|             |              | 12)      | 対象児B      | 女<br>小2   | 通級指導  |                           |   |   |   |   |   |   |   | ○ |   |           | ○ |   |   |                |
|             |              | 13)      | 対象児C      | 男<br>小2   | 通常の学級 |                           |   |   |   |   |   |   |   |   |   |           | ○ |   |   |                |
|             |              | 14)      | 対象児D      | 男<br>小2   | 通常の学級 |                           |   | ○ | ○ |   |   | ○ |   |   |   |           | ○ | ○ |   | ADHD           |
|             |              | 15)      | 対象児E      | 男<br>小3   | 通級指導  |                           |   | ○ | ○ |   |   | ○ |   |   |   |           | ○ | ○ | ○ | ADHD           |
|             |              | 16)      | 対象児F      | 男<br>小4   | 通級指導  |                           |   | ○ | ○ |   |   |   |   |   |   |           | ○ | ○ |   | ADHD・ASD       |

表 4-2 SLD 傾向のある IN-Child の実態と IN-Child Record の対応分析の結果

| 発行年        | 著者         | 通し番号       | 対象児        |          |       |                    |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   | 診断と服薬 |                    |   |
|------------|------------|------------|------------|----------|-------|--------------------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|-------|--------------------|---|
|            |            |            | 文中の表記      | 性別<br>学年 | 在籍    | IN-Child Recordの項目 |   |   |   |   |   |   |   |   |   | 推 |   |   |       |                    |   |
|            |            |            |            |          |       | 身                  | 姿 | 不 | 多 | こ | 自 | 社 | コ | 聞 | 話 |   | 読 | 書 |       | 計                  |   |
| 2013       | 熊谷         | 17)        | 事例A        | 男<br>中2  | 一     |                    |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   | ○ | ○     | ○                  |   |
|            |            | 18)        | 事例B        | 男<br>小5  | 一     |                    |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |       | ○                  | ○ |
|            | 山元・平嶋      | 19)        | 5年生        | 男<br>小5  | 一     |                    |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |       | ○                  | ○ |
|            |            | 20)        | 6年生        | 男<br>小6  | 一     |                    |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |       | ○                  | ○ |
|            | 小崎・笹山<br>ら | 21)        | A児         | 一<br>小4  | 通常の学級 |                    |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |       | ○                  |   |
|            |            | 22)        | B児         | 一<br>小4  | 通常の学級 |                    |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |       | ○                  |   |
|            | 園田・井上<br>ら | 23)        | A児         | 男<br>小6  | 通常の学級 |                    |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |       | ○                  |   |
|            |            | 24)        | 小学2年<br>男児 | 女<br>小2  | 通級指導  |                    |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   | ○     |                    |   |
|            | 井上・濱田      | 25)        | 小学5年<br>男児 | 男<br>小5  | 通級指導  |                    |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   | ○     |                    |   |
|            |            | 26)        | 小学4年<br>男児 | 男<br>小4  | 通常の学級 | ○                  |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   | ○     | ○                  |   |
| 渡部・荻田<br>ら | 27)        | Y児         | 一<br>中2    | 通常の学級    |       |                    |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   | ○ | ○     |                    |   |
|            | 28)        | 小学1年<br>男児 | 男<br>小1    | 一        |       |                    |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   | ○ | ○     | ○                  |   |
| 増田・鶴岡<br>ら | 29)        | 中3の<br>男子  | 男<br>中3    | 通常の学級    |       |                    |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   | ○     |                    |   |
|            | 30)        | 中3の<br>女子  | 女<br>中3    | 一        |       |                    |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   | ○ | ○     |                    |   |
| 瀬底         | 31)        | A児         | 女<br>小2    | 通級指導     |       |                    |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   | ○ | ○     |                    |   |
|            | 32)        | K          | 女<br>8歳    | 一        |       |                    |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |       | ○                  |   |
| 芦谷・土井<br>ら | 33)        | A児         | 男<br>小3    | 通常の学級    |       |                    |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   | ○ | ○     |                    |   |
|            | 押田・川崎      |            |            |          |       |                    |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |       | アスペルガー<br>症候群・ADHD |   |



表 4-3 SLD 傾向のある IN-Child の実態と IN-Child Record の対応分析の結果

| 発行年  | 著者           | 通し<br>番号 | 対象児       |          |               |                    |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |        |                    |               | 診断と<br>服薬 |
|------|--------------|----------|-----------|----------|---------------|--------------------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|--------|--------------------|---------------|-----------|
|      |              |          | 文中の<br>表記 | 性別<br>学年 | 在籍            | IN-Child Recordの項目 |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   | 推<br>計 |                    |               |           |
|      |              |          |           |          |               | 身                  | 姿 | 不 | 多 | こ | 自 | 社 | コ | 聞 | 話 | 読 |        | 書                  |               |           |
| 2014 | 橋本・岡ら        | 34)      | 小学1年      | 男<br>小4  | 一             |                    |   |   |   | ○ | ○ |   |   |   |   | ○ | ○      |                    | アスペルガー<br>症候群 |           |
|      |              | 35)      | 対象児A      | 男<br>小6  | 通級指導          |                    |   | ○ |   |   |   |   |   |   |   |   | ○      |                    |               |           |
|      | 竹森           | 36)      | 対象児B      | 男<br>12歳 | 通級指導          |                    |   |   |   |   |   |   |   |   |   | ○ | ○      |                    |               |           |
|      |              | 37)      | 対象児C      | 男<br>小6  | 通常の学級         |                    |   | ○ |   |   |   |   |   |   |   |   | ○      |                    |               |           |
|      | 榎熊・大庭<br>石田ら | 38)      | 対象児D      | 女<br>11歳 | 通級指導          |                    |   |   |   |   | ○ |   |   |   |   | ○ | ○      |                    |               |           |
|      |              | 39)      | 対象者       | 男<br>小2  | 通常の学級         |                    |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   | ○      |                    |               |           |
|      | 中山           | 40)      | いちは       | 女<br>小5  | 通級指導<br>(中3時) |                    |   |   |   | ○ |   |   |   |   |   | ○ | ○      | ○                  |               |           |
|      |              | 41)      | 対象児       | 男<br>6年生 | 一             |                    |   | ○ |   |   |   |   |   | ○ | ○ | ○ | ○      |                    |               |           |
|      | 小枝・関<br>田中ら  | 42)      | 事例A       | 一<br>小1  | 通常の学級         |                    |   |   |   |   |   | ○ |   |   |   |   | ○      | ○                  |               |           |
|      |              | 43)      | A児        | 男<br>小2  | 通常の学級         |                    |   | ○ |   |   |   |   |   |   |   |   | ○      | ○                  |               |           |
|      | 新島・平井<br>中山  | 44)      | D児        | 男<br>中1  | 通常の学級         |                    |   |   |   |   |   | ○ |   |   |   |   | ○      |                    |               |           |
|      |              | 45)      | E児        | 男<br>小5  | 通常の学級         |                    |   |   |   |   |   |   |   | ○ |   |   | ○      | ○                  |               |           |
|      | 山下           | 46)      | A君        | 男<br>中1  | 通級指導          |                    |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   | ○      |                    |               |           |
|      |              | 47)      | A児        | 男<br>小5  | 通常の学級         |                    |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |        | ○                  |               |           |
|      | 野田・松見        | 48)      | B児        | 男<br>小5  | 通常の学級         |                    |   |   |   |   |   | ○ |   |   |   |   |        | ○                  |               |           |
|      |              | 49)      | A児        | 男<br>小3  | 通常の学級         |                    |   | ○ | ○ | ○ | ○ |   |   |   |   | ○ | ○      |                    |               |           |
|      | 入山           |          |           |          |               |                    |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |        | アスペルガー<br>症候群・ADHD |               |           |

表 4-4 SLD 傾向のある IN-Child の実態と IN-Child Record の対応分析の結果

| 発行年  | 著者           | 通し番号          | 対象児         |          |       |                    |   |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   | 診断と服薬 |   |   |   |   |   |   |   |     |   |
|------|--------------|---------------|-------------|----------|-------|--------------------|---|--|--|--|--|--|--|---|---|---|---|---|-------|---|---|---|---|---|---|---|-----|---|
|      |              |               | 文中の表記       | 性別<br>学年 | 在籍    | IN-Child Recordの項目 |   |  |  |  |  |  |  | 身 | 姿 | 不 | 多 | こ |       | 自 | 社 | コ | 聞 | 話 | 読 | 書 | 計   | 推 |
|      |              |               |             |          |       |                    |   |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |       |   |   |   |   |   |   |   |     |   |
| 2014 | 平島           | 50)           | 小学1年男児      | 男小4      | 通級指導  | ○                  | ○ |  |  |  |  |  |  |   |   |   | ○ |   |       |   |   |   | ○ | ○ |   |   | 外斜視 |   |
|      |              | 51)           | 対象児A        | 男小6      | 通常の学級 |                    |   |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |       |   |   | ○ | ○ | ○ | ○ |   | 斜視  |   |
|      | 2015         | 阿部・有川<br>長谷川ら | 52)         | 対象児A     | 男中3   | 通常の学級              |   |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |       |   |   |   | ○ |   |   |   |     |   |
| 53)  |              |               | 対象児B        | 男小3      | 通常の学級 |                    |   |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |       |   |   |   | ○ |   |   |   |     |   |
|      | 宇野・春原<br>金子ら | 54)           | 男7名<br>女3名  | 男・女小1以上  |       |                    |   |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |       |   |   |   | ○ | ○ |   |   |     |   |
|      |              | 55)           | 男23名<br>女3名 | 男・女小2以上  |       |                    |   |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |       |   |   |   | ○ | ○ |   |   |     |   |
|      | 岡崎・井上<br>中村ら | 56)           | ー           | 男小6      | 特支学級  |                    |   |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |       |   |   |   |   | ○ |   |   |     |   |
|      | 出口・西川<br>吉田  | 57)           | A児          | 女小5      | 通級指導  |                    |   |  |  |  |  |  |  |   |   |   | ○ |   |       |   |   |   |   | ○ |   |   |     |   |
|      |              | 58)           | B児          | 女小5      | 通級指導  |                    |   |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |       |   |   |   |   | ○ |   |   |     |   |
|      | 59)          | C児            | 女小5         | 通級指導     |       |                    |   |  |  |  |  |  |  |   |   |   | ○ |   |       |   |   |   |   | ○ |   |   |     |   |
|      | 末永・網谷        | 60)           | D児          | 女小5      | 通級指導  |                    |   |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |       |   |   |   |   | ○ |   |   |     |   |
|      |              | 61)           | ー           | 男小5      | 通常学級  | ○                  |   |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   | ○ |       |   |   |   |   | ○ | ○ |   | LD  |   |
|      | 芳倉・玉村        | 62)           | A児          | 小2～6     | 通級指導  |                    |   |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |       |   |   |   | ○ | ○ |   |   | LD  |   |
|      |              | 63)           | B児          | 小2～5     | 通級指導  |                    |   |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |       |   |   |   |   | ○ | ○ |   |     |   |
|      |              | 64)           | C児          | 小2～3     | 通級指導  |                    |   |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |       |   |   |   |   | ○ | ○ | ○ |     |   |
|      | 稲田・難波        | 65)           |             | 男小3      | 通級指導  |                    |   |  |  |  |  |  |  |   |   |   | ○ | ○ |       |   |   |   | ○ | ○ | ○ | ○ |     |   |

表 4-5 SLD 傾向のある IN-Child の実態と IN-Child Record の対応分析の結果

| 発 行 年 |                    | 著 者 | 通し<br>番号 | 対象児       |          |    |                    |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   | 診断と<br>服薬 |                  |
|-------|--------------------|-----|----------|-----------|----------|----|--------------------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|-----------|------------------|
|       |                    |     |          | 文中の<br>表記 | 性別<br>学年 | 在籍 | IN-Child Recordの項目 |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |           |                  |
|       |                    |     |          |           |          |    | 身                  | 姿 | 不 | 多 | こ | 自 | 社 | コ | 聞 | 話 | 読 | 書 |           | 計                |
| 2016  | 鈴木・織田<br>大西ら<br>各務 | 66) | 生徒A      | 中学生       | 通常の学級    |    |                    |   |   |   | ○ |   |   |   |   |   |   | ○ |           |                  |
|       |                    | 67) | A児       | 女<br>小1   |          |    |                    |   |   |   | ○ |   |   |   |   |   | ○ |   |           |                  |
|       |                    | 68) | B児       | 男<br>小1   |          |    |                    |   |   |   |   |   |   |   | ○ | ○ |   |   |           |                  |
|       | 入山                 | 69) | 一        | 小5        | 通常の学級    |    |                    |   |   |   | ○ |   |   | ○ | ○ | ○ | ○ |   |           |                  |
|       |                    | 70) | 一        | 女<br>小3   | 通常の学級    |    |                    |   |   |   |   |   |   |   |   | ○ | ○ |   |           |                  |
|       | 岩瀧・山崎              | 71) | 一        | 男<br>中1   |          | ○  | ○                  |   |   |   | ○ |   |   |   |   |   | ○ |   |           |                  |
|       | 須藤・宮野              | 72) | 一        | 小1        | 通級指導     |    |                    |   |   |   | ○ |   |   |   |   |   | ○ | ○ |           | LD               |
|       | 都築・兵藤<br>伊藤ら       | 73) | II (13)  | 女<br>中3   | 通級指導     |    | ○                  | ○ | ○ | ○ |   |   |   | ○ |   |   | ○ | ○ |           |                  |
| 2017  | 早田・東<br>中村ら        | 74) | A        | 男<br>中2   | 通級指導     | ○  |                    |   |   | ○ | ○ |   |   |   |   |   | ○ |   |           | ADHD・SLD<br>(服薬) |
|       | 天野・宮本              | 75) | 一        | 女<br>小3   | 通級指導     | ○  |                    |   | ○ |   |   |   |   | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○         |                  |
|       | 高橋・松本<br>寺田        | 76) | 一        | 男<br>中3   | 通常の学級    |    | ○                  | ○ |   |   | ○ |   |   |   |   |   |   |   | ○         |                  |
|       | 伊藤・原田              | 77) | E児       | 男<br>小3   | 通常の学級    |    |                    |   |   |   |   | ○ |   |   |   |   | ○ | ○ | ○         |                  |
|       |                    | 78) | I児       | 男<br>小2   | 通級指導     |    |                    |   |   |   |   |   |   |   |   |   | ○ | ○ | ○         |                  |
|       | 井上・遠藤              | 79) | 一        | 男<br>中1   | 通常の学級    |    |                    |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   | ○ |           |                  |

## 2. 指導・支援方法と IN-Child Record の項目の対応分析

## 1) SLD 傾向のある IN-Child の身体面への指導・支援方法

「身体の状態」と「姿勢・運動・動作」に関する指導・支援を表 5 にまとめた。

「身体の状態」に関する指導・支援を行っている事例は、9 件であった。そのうち、ペアレントトレーニングを行っている事例が 7 件<sup>4)11)12)13)14)15)16)</sup>、また、腹痛などの症状が出たときには言うこと、対象児が感じる不安やクラスの中での孤立感を、母親・学校関係者と共に共有、といった不安に対する解消について指導・支援を行っている事例は 2 件<sup>73)75)</sup>であった。

「姿勢・運動・動作」に関する指導・支援を行っている事例は、6 件であった。文字を書かせる際に動きを取り入れている事例<sup>5)57)58)59)60)</sup>と、フィンガーペインティングやバランスボールなど、様々な遊びを通して微細運動や粗大運動について指導・支援を行っている事例<sup>31)</sup>であった。

表 5 身体面に関する指導・支援の対応分析結果

| IN-Child Record の項目 | 指導・支援                                                                                                 | 資料の<br>通し番号            |
|---------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------|
| 身体の状態               | ・保護者でグループを作り、ペアレントトレーニング                                                                              | 4)                     |
|                     | ・個別のペアレントトレーニング                                                                                       | 11)12)13)<br>14)15)16) |
|                     | ・腹痛などの症状が出たときには言うこと                                                                                   | 73)                    |
|                     | ・対象児が感じる不安やクラスの中での孤立感を、母親・学校関係者と共に共有                                                                  | 75)                    |
| 姿勢・運動<br>動作         | ・身体全体を使って大きく文字を書かせたり、ホワイトボードで練習させる                                                                    |                        |
|                     | ・平均台を歩きながら覚える等のゲームをしながら、楽しんで学習する方法を取り入れる                                                              | 5)                     |
|                     | ・第 1 期 遊びを通じた他者との関係形成<br>「スペース釣り堀」「フィンガーペインティング」<br>「オリジナル傘作り、ツユコレ」                                   |                        |
|                     | ・第 2 期 複数他者との関係形成<br>「窓ガラスへのペイント」「風船バスケット」「シャボン玉遊び」<br>「ドミノ」「バランスボール」「サイコロゲーム」                        | 31)                    |
|                     | ・第 3 期 共有体験できる他者との関わり<br>「スクーターボード」「紙粘土づくり」                                                           |                        |
|                     | ・動きを伴う活動<br>使用教材 「新版 あわせ漢字ビンゴゲーム 1 (へん・つくり・かんむり・あしあそび)」<br>小学 2~3 年生 の漢字(7)~漢字がたのしくなる本」教具シリーズ(7) ふり返り | 57)58)<br>59)60)       |

## 2) SLD 傾向のある IN-Child の情緒面への指導・支援方法

「不注意」、「多動性・衝動性」、「こだわり」、「自己肯定感」に関する指導・支援を表 6 にまとめた。

「不注意」に関する指導・支援を行っている事例は、13 件であった。そのうち 8 件<sup>4)42)47)48)50)52)53)79)</sup>が、安心して学習できる、元気が出る居場所を保障、集中できるような環境で行う、など環境の設定に関する指導・支援を行っている事例であった。遊びやゲームにより注意を促している事例が 3 件<sup>3)5)61)</sup>であった。

「多動性・衝動性」、「こだわり」に関する指導・支援を行っている事例は、0 件であった。

「自己肯定感」に関する指導・支援を行っている事例は、17 件であった。そのうち、正しく読めた場合は褒める、肯定的な声掛け、など言語的賞賛をしている事例が 7 件<sup>6)47)48)71)72)77)79)</sup>、頑張りシールを利用したトークンエコノミーを行っている事例が 6 件

8)9)47)48)52)53)、その他には、安心して学習できる元気が出る居場所を保証し、自己理解を図りながら、自信を取り戻すことを目指した事例<sup>4)</sup>や、先取り学習をさせ自信を持たせる<sup>5)</sup>、などといった事例であった。

表 6 情緒面に関する指導・支援の対応分析結果

| IN-Child Record の項目 | 指導・支援                                                                                                                        | 資料の<br>通し番号 |
|---------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 不注意                 | ・オセロやビンゴなどのゲームを導入として取り入れる                                                                                                    | 3)          |
|                     | ・通級指導の中では、安心して学習できる、元気が出る居場所を保障                                                                                              | 4)          |
|                     | ・運動しながら学習活動に取り組むことで、楽しんで学習させる                                                                                                | 5)          |
|                     | ・保護者と本人の希望により、<br>自宅・小学校内・大学内の指導室の中から場所を選定した                                                                                 | 42)         |
|                     | ・小学校内の空き教室で、放課後に行う                                                                                                           | 47)48)      |
|                     | ・座席位置と時間延長の配慮                                                                                                                | 50)         |
|                     | ・下校する他児童に注意がそれないようにカーテンを閉め学習を行う                                                                                              | 52)53)      |
|                     | ・学習後に遊びの時間を設ける                                                                                                               | 61)         |
|                     | ・プリント類が片付けられないことについては、3 種類のクリアファイル（透明・青・赤）にそれぞれ、「家に持って帰るもの」、「授業で配られたもの」、「宿題になっているもの」を入れるように指示し、ある程度たまったら、A に声をかけ、バインダーに綴じさせる | 71)         |
|                     | ・問題文の数字や単位に○をつけたりして、注意を促している                                                                                                 | 77)         |
|                     | ・集中できるような環境で行う                                                                                                               | 79)         |
| 多動性・衝動性             | 特になし                                                                                                                         |             |
| こだわり                | 特になし                                                                                                                         |             |
| 自己肯定感               | ・安心して学習できる元気が出る居場所を保証し、自己理解を図りながら、自信を取り戻すことを目指す                                                                              | 4)          |
|                     | ・クラスでの一斉学習で躓く場所を予測し、必要に応じて先取り学習させ、自信を持たせる                                                                                    | 5)          |
|                     | ・正しく読めた場合は、褒める                                                                                                               |             |
|                     | ・間違えて読んでしまった場合は、正しい読みのフィードバックをし、再度読むようにする                                                                                    | 6)          |
|                     | ・トークンエコノミーとして頑張りシールを貼る                                                                                                       | 8)9)        |
|                     | ・心理的援助                                                                                                                       |             |
|                     | ①言語によるカウンセリング                                                                                                                |             |
|                     | ②描画やコラージュ、箱庭などイメージを用いた表現療法                                                                                                   | 32)         |
|                     | ③認知行動療法                                                                                                                      |             |
|                     | ①～③のうち年齢や能力、問題意識に応じてふさわしいものを選択                                                                                               |             |
|                     | ・これまでの全解答回数と 1 週間の解答回数の記録も表示されるようにした                                                                                         | 39)         |
|                     | ・学習中は、書字に対する指示や指導は与えず、教師が学習をそばで見守る                                                                                           | 46)         |
|                     | ・タイムトライアル                                                                                                                    |             |
|                     | タイムトライアル 1 回につき、シールを 1 枚与えた<br>目標を達成していた場合は、言語的賞賛                                                                            | 47)48)      |
|                     | ・書字が正確でなくても責めない                                                                                                              | 50)         |
|                     | ・漢字テスト時には、1 問正解するとトークンとしてシール 1 枚をわたす                                                                                         | 52)53)      |
|                     | ・肯定的な声掛け                                                                                                                     | 71)         |
|                     | ・正反応のポイントとなる線分に○印をつけるとともに言語賞賛した。                                                                                             |             |
|                     | ・誤反応を示した場合は、「おいしい」と言っただけで、誤反応に該当する線分と見本の正しい線分とに○印をつけて双方を提示し、修正するように促す                                                        | 72)         |
|                     | ・正解ごとに褒める                                                                                                                    | 77)         |
|                     | ・正解ごとに褒める                                                                                                                    | 79)         |

## 3) SLD 傾向のある IN-Child の生活面への指導・支援方法

「社会生活機能」、「コミュニケーション」に関する指導・支援を表 7 にまとめた。

「社会生活機能」に関する指導・支援を行っている事例は、7 件であった。授業でのルール、また、発言の際の手順や挨拶などに関する内容をルールとして設定している事例が 3 件<sup>4)61)75)</sup>であった。スケジュールカードなどを使用し、見通しを持たせるようにしている事例が 2 件<sup>8)9)</sup>であった。

「コミュニケーション」に関する指導・支援を行っている事例は 4 件であった。そのうち、社会的スキル訓練(Social Skills Training: 以下、SST)を実施している事例が 3 件<sup>4)46)74)</sup>であった。

表 7 生活面に関する指導・支援の対応分析結果

| IN-Child<br>Record の項目 | 指導・支援                                                                                                               | 資料の<br>通し番号 |
|------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 社会生活機能                 | ・授業のルールを守って学習することを教える                                                                                               | 4)          |
|                        | ・本時の流れをスケジュールカードで示す                                                                                                 | 8)9)        |
|                        | ・事前に約束したルールの範囲内で学習を行う                                                                                               | 61)         |
|                        | ・「排泄」をテーマにした絵本の読み聞かせをし、学校でのトイレに対する抵抗感への対応                                                                           | 65)         |
|                        | ・トラブルの場面を想定し、対応するためのシミュレーション<br>具体例：<br>電車に乗り遅れた場合、班の誰かが迷子になった場合<br>自分が迷子になった場合、班のメンバーでもめた場合等                       | 73)         |
|                        | ・朝の会で司会の役割する時には、朝の会プログラムにしたがって司会のことばをメモしたものを用意                                                                      | 75)         |
|                        |                                                                                                                     |             |
| コミュニ<br>ケーション          | ・SST とコミュニケーションスキルを高める国語・算数指導<br>・集団のメンバーとして、同じような課題をもつ児童や不登校を乗り越えた子どもたちと一緒に活動し、安心感だけでなく、ライバル意識が育つ友達やモデルとなる友達と学習を行う | 4)          |
|                        | ・第 1 期 遊びを通じた他者との関係形成<br>「スペース釣り堀」「フィンガーペインティング」<br>「オリジナル傘作り、ツユコレ」                                                 |             |
|                        | ・第 2 期 複数他者との関係形成<br>「窓ガラスへのペイント」「風船バスケット」「シャボン玉遊び」<br>「ドミノ」「バランスボール」「サイコロジグゲーム」                                    | 31)         |
|                        | ・第 3 期 共有体験できる他者との関わり<br>「スクーターボード」「紙粘土づくり」                                                                         |             |
|                        | ・SST カードを使用した絵カード説明                                                                                                 | 46)         |
|                        | ・小集団の対人関係づくりに関する SST、大集団の対人関係づくりに関する SST<br>・1 段階：15 人～20 人で、テーマを設定してのミーティング、ゲーム大会、演芸大会等(病棟看護師)                     | 74)         |
|                        | ・2 段階：20～29 人で、太鼓療育等(作業療法士、看護師)<br>・3 段階：70～80 人で、学園祭、運動会等(教師、看護師、作業療法士)                                            |             |

#### 4) SLD 傾向のある IN-Child の学習面への指導・支援方法

「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」、「計算する」、「推論する」に関する指導・支援を表 8 にまとめた。

「聞く」に関する指導・支援を行っている事例は 0 件であった。また、「話す」に関する指導・支援を行っている事例も、0 件であった。

「読む」に関する指導・支援を行っている事例は、41 件であった。うち、DAISY 教科書を活用していた事例が 8 件<sup>6)24)25)41)62)63)64)78)</sup>、分かち書き文を作成している事例が 8 件<sup>8)9)11)12)13)14)15)16)</sup>、ふりがなを振っている事例が 7 件<sup>11)12)13)14)15)16)29)</sup>、五十音表の再生を行っている事例が 4 件<sup>33)54)55)70)</sup>、問題文の拡大など、文字の大きさに配慮している事例が 3 件<sup>6)29)50)</sup>、手を叩いて単語の拍をとっている事例が 3 件<sup>46)49)51)</sup>、ST 訓練を行っている事例が 2 件<sup>26)28)</sup>、その他には、絵を提示して場面を想起させる事例<sup>3)</sup>や拡大鏡やプリズム眼鏡などの器具を使用している事例<sup>50)</sup>などであった。

「書く」に関する指導・支援を行っている事例は、45 件であった。うち、iPad や液晶ペンタブレットといった ICT を活用している事例が 9 件<sup>23)27)39)57)58)59)60)69)78)</sup>、漢字の成り立ちを音声言語化して覚える聴覚法、またはそれに類似した方法を活用している事例が 9 件<sup>11)12)13)14)15)16)33)40)70)</sup>、また、漢字をパーツに分解し、それを合体して覚える視覚法を活用した事例が 8 件<sup>5)11)12)13)14)15)16)70)</sup>、その他には、身体全体を使って大きく文字を書かせるなど、動きを伴う事例<sup>5)57)58)59)60)</sup>なども見られた。

「計算する」に関する指導・支援を行っている事例は、19 件であった。うち、学習アプリや PC ソフトなどの ICT を活用した事例が 5 件<sup>19)20)64)77)78)</sup>、カードなどを使い視覚的に支援をしている事例が 4 件<sup>17)18)21)22)</sup>、その他には、「手順書」、「演算子表」、「言葉式」を示した事例<sup>10)</sup>や、大きい文字の計算機などの器具を使用した事例<sup>50)</sup>も見られた。

「推論する」に関する指導・支援を行っている事例は、16 件であった。文章を読む際に 5W1H に分けて抽出するなど、文の構成を分類している事例が 7 件<sup>11)12)13)14)15)16)77)</sup>、ICT を活用した事例が 2 件<sup>19)20)</sup>、文章構成課題に関する事例が 2 件<sup>37)38)</sup>、その他には、なぞなぞ作りを行った事例<sup>46)</sup>などが見られた。

表 8-1 学習面に関する指導・支援の対応分析結果

| IN-Child<br>Record の項目 | 指導・支援                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 資料の<br>通し番号            |
|------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------|
| 聞く                     | ・話は最後まできちんと聞くことをルールとして設定する                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 31)                    |
| 話す                     | 特になし                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                        |
| 読む                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・かな文字導入のプログラム</li> <li>①文字「あ」を提示する</li> <li>②アヒルの絵と音節図式を提示する</li> <li>③図式に積み木を入れる。音と文字が提示される</li> <li>④「あひる」の「ア」であることを教える</li> <li>①～④のうち、途中で分かった場合⑤へ</li> <li>⑤再度図式に積み木を入れて、「あ」が「ア」と読まれることを再確認する</li> </ul>                                                                                                                                     | 1)                     |
|                        | ・DAISY 教科書の使用 タブレットの PC で DAISY 教科書を使用することを支援                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 2)                     |
|                        | ・スモールステップで 2 文ずつに分けて答えさせたり絵を提示して場面を想起させる                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 3)                     |
|                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・サイトワードによる指導</li> <li>・読みの誤答率が 33.3%以上であった単語 16 個を使用:文字の大きさは、視空間認知の弱さを考慮して、対象児にとって最も見やすいものを選ぶ</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                         | 6)                     |
|                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・非分かち書き文、分かち書き文、一行一文飾文の順に行う</li> <li>小冊子を自分でめくっての音読。</li> <li>・読み方のわからない漢字に遭遇した時には、そのつど指導者が読み方を教える</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                    | 8)9)                   |
|                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・分かち書き法</li> <li>文章中に書き表せる単語ごとにスペースを入れ、単語を認知しやすくし、分の切れ目を見やすくする方法</li> <li>・スリットの使用</li> <li>読む行のみ、スリットの隙間に見えるような補助具を用いて、読む場所に視点を集中できるようにする方法</li> <li>・リピート音読</li> <li>指導者が読んだ分を同じように後をついて読む方法。対象児の読みのスピードに合わせて行う。</li> <li>・リライト教材の活用</li> <li>リライト教材とは、対象児の読みの状態に応じて、漢字をひらがなに変えたり、ルビを振ったり、複雑な構文を簡素化したり、内容を変えずに文章量を減少させたりして作成した教材である</li> </ul> | 11)12)13)<br>14)15)16) |
|                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・DAISY 教科書の活用</li> <li>国語の DAISY 教科書を家庭学習での音読の宿題用という目的で利用開始。その後、通級指導において、ハイライト表示され読み上げられた文節を後追いで音読させた後、読み上げの音声を消しハイライト部分を音読させ、併せて内容把握をする指導を行う</li> </ul>                                                                                                                                                                                         | 24)25)                 |
|                        | ・ST 訓練                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 26)                    |
|                        | ・言語聴覚士による読み書き指導                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 28)                    |
|                        | ・テスト問題文の拡大と問題文へのフリガナ、別室受験と時間延長                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 29)                    |
|                        | ・別室受験、時間延長と罫線のない解答用紙の使用                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 30)                    |
|                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・五十音表を「あ、あいうえお。あか、かきくけこ。あかさ、さしすせそ。…あかさたなはまやらわ、わいうえを」という読み方で、一日 2 回ずつ言うことを宿題に出す</li> <li>・五十音表を読み、かたかなの書字を行う</li> <li>・「マはフに横ぼう」「ヌは横ぼう書いてメ」というフレーズを作って練習。5 回ずつ言う練習をして書字</li> </ul>                                                                                                                                                                | 33)                    |
|                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導期Ⅰ：DAISY のみの読み指導</li> <li>セッション中に読んだところを宿題として自宅で DAISY を使った読みの練習を 1 日 10 分程度行うように指示した</li> <li>小学校 3 年生の教科書の文章</li> <li>・指導期Ⅱ：DAISY と区切り読みの読み指導</li> <li>分の切れ目に斜線を入れながら音読する</li> <li>学習出来なかった漢字についてはフリガナを振る</li> </ul>                                                                                                                        | 41)                    |
|                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・段階Ⅰ 学級内での読み書き指導</li> <li>段階Ⅱ 解読指導（個別指導）</li> <li>段階Ⅲ 解読指導（個別）、解読&amp;語彙指導</li> <li>解読指導は表記された文字の読みが、自動化されるように指導する方法</li> <li>語彙指導は単語や語句をまとまりとして読めるように語彙力を高める指導法</li> </ul>                                                                                                                                                                      | 42)                    |



表 8-2 学習面に関する指導・支援の対応分析結果

| IN-Child<br>Record の項目 | 指導・支援                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 資料の<br>通し番号 |
|------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 読む                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ COGENT の利用</li> </ul> <p>COGENT はモジュール 1～5 の課題群からなり、各モジュールはパート 1 と 2 に分かれています。パート 2 はパート 1 よりも困難度が高くなっている。そのためまずモジュール 1～5 のパート 1 を実施し、その後モジュール 1～5 のパート 2 を実施</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 43)44)45)   |
|                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音韻、視覚認知、語彙などにアプローチ</li> <li>「読み書きが苦手な子どもへの”基礎”トレーニングワーク」活用</li> <li>「か」が付く言葉はどれでしょうという課題</li> <li>小さい「っ」でどれが当てはまるかなという課題</li> <li>音の数を手をたたいたりしながら数える練習</li> <li>伸ばす棒の練習</li> <li>拗音「キャ、キュ、キョ」 とか「シャ、シュ、ショ」の練習</li> <li>点つなぎなどの課題</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 46)         |
|                        | <p>第 1 期:小学 2 年時</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科書、本は「読ませる」より「読み聞かせる」</li> <li>・ 「読む+意味理解」の支援</li> <li>・ 読み終わったあと内容について質問応答を実施。</li> <li>・ 漢字練習は短文などにして練習</li> <li>・ 作文はまず自分の考えを言わせ、それを周囲の大人がそのまま書き起こす。書いたものを読む、または一緒に読む。</li> <li>・ 拗促音（特殊音節）の指導</li> <li>・ 文字は視覚的に確認しながら、手を叩いて単語の拍をとる「表記はするが音にはならない」点についても繰り返し練習</li> </ul> <p>第 2 期:小学 3～4 年時（集団指導）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音読指名の際にはあらかじめ充てる箇所を知らせておく</li> <li>・ 宿題の漢字ドリルはその漢字を使った熟語等で短文を作らせ、意味理解を徹底する</li> <li>・ テストの際は問題文を読み上げる</li> <li>・ 担任と保護者が常に状況を報告し合いながら進めた</li> </ul> | 49)         |
|                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音読は近くで教師が小声で読む</li> <li>・ 器具の使用</li> </ul> <p>拡大鏡、プリズム眼鏡、教科書の拡大、大きい文字の計算機の使用</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 50)         |
|                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音の数あて、音のまねっこ、音に合わせて</li> <li>・ 平仮名カードの速読、短冊カードの速読</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 51)         |
|                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「ひらがな 50 音カード」</li> <li>・ 「MIM-PM ひらがな単語カード」</li> <li>・ iPad mini による漢字学習プログラム</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 52)53)      |
|                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 五十音表の音系列の記憶（音声言語としての 50 音表の記憶）再生を行った。具体的には、「あ、か、さ、た、な、は、ま、や、ら、わ、を、ん」と、各列の最初の音に「を」と「ん」を加えた音を言えるようにした後、「あ、あいうえお、あか、かきくけこ、あかさ、さしすせそ、...、あかさたなはまやら、らりるれろ、あかさたなはまやらわ、わをん」と各列の最初の音をあ行から言っていく、目標の列に達したら、あ段からお段へと言うように指導</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 54)55)      |
|                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ひらがなの習得や文章の読み、漢字の習得など読み書きの指導</li> </ul> <p>4 年生から DAISY 教科書（国語）を家庭、通級指導教室、通常の学校</p> <p>5 年生からは、国語と理科、社会の DAISY 教科書を使用し、当該学年の学習内容の理解を促すようにした</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 62)63)      |
|                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2 年生 ひらがなや漢字の読み書き指導</li> <li>・ 3 年生 読み書き指導と算数の学習補充</li> </ul> <p>DAISY 教科書の利用は、2 年生の通級開始と同時に家庭学習と通級指導教室で始め、3 年生からは、単元によって通常学級でも使用</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 64)         |
|                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ しりとり、音韻削除、音韻合成を直接的な音韻意識改善のための支援</li> <li>・ MIM-PM アセスメントと個の認知特性の把握で明らかになってきたことを担任や通級指導教室担当教諭に継続的に伝える</li> <li>・ 家庭でも文字と音とが結びつくように目に付く様々な物に名札を貼るなどして学校と家庭とが連携した支援</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 67)68)      |

表 8-3 学習面に関する指導・支援の対応分析結果

| IN-Child<br>Record の項目 | 指導・支援                                                                                          | 資料の<br>通し番号 |
|------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 書く                     | ・絵の下に文字を描いたり、絵の上に文字を重ねて書いたりする                                                                  | 34)         |
|                        | ・漢字の書き取り課題                                                                                     | 35)36)      |
|                        | ・文章構成課題                                                                                        | 37)38)      |
|                        | ・iPad を利用「FileMaker 教材」                                                                        |             |
|                        | 漢字問題作成活動（センターにおいて支援者と一緒に問題を作成する）                                                               | 39)         |
|                        | 漢字問題解答活動（教材を使用して対象者が自発的に学習を行う）                                                                 |             |
|                        | ・国語 漢字、文章理解                                                                                    |             |
|                        | 漢字を書くための語呂を覚えて、その語呂に従って書く。「漢字九九カード」シリーズや「じゅもんでおぼえる漢字練習帳」シリーズ等を使用。小学 3 年生で学習予定の 100 字を指導漢字とする   | 40)         |
|                        | ・見たこと作文 まずいっぱい書いてもらうという経験をさせるということを踏まえて、私が何かしたことについて作文してもらう活動                                  | 46)         |
|                        | 朝学習の時間に特別支援学級で個別指導                                                                             |             |
|                        | 第 1 期:小学 2 年時                                                                                  |             |
|                        | ・教科書、本は「読ませる」より「読み聞かせる」。                                                                       |             |
|                        | ・「読み聞かせる本」は知的レベルに合ったものを用意。                                                                     |             |
|                        | ・「読む+意味理解」の支援、読み終わった後、内容について質問応答を実施                                                            |             |
|                        | ・漢字練習は短文などにして練習                                                                                |             |
|                        | ・作文はまず自分の考えを言わせ、それを周囲の大人がそのまま書き起こす。書いたものを読む、または一緒に読む                                           |             |
|                        | 拗促音の指導：文字は視覚的に確認しながら手を叩いて単語の拍をとる                                                               |             |
|                        | 「表記はするが音にはならない」点についても繰り返し練習                                                                    | 49)         |
|                        | 第 2 期:小学 3~4 年時（集団）                                                                            |             |
|                        | ・音読指名の際にはあらかじめ充てる箇所を知らせておく                                                                     |             |
|                        | ・宿題の漢字ドリルはその漢字を使った熟語等で短文を作らせ、意味理解を徹底する                                                         |             |
|                        | ・テストの際は問題文を読み上げる                                                                               |             |
|                        | ・担任と保護者が常に状況を報告し合いながら進めた                                                                       |             |
|                        | 第 3 期：小学 5 年～6 年時                                                                              |             |
|                        | ペーパーテストの点数があまりに低いときは、テスト後に担任が、個別に口頭で理解しているかどうかを確認する「再テスト」を行った。                                 |             |
|                        | ・視写やなぞりがきでもよい                                                                                  |             |
|                        | ・ノートのマス目を大きくし、プリントも行間を広げ、書字枠を大きくした                                                             | 50)         |
|                        | ・器具の使用:拡大鏡、プリズム眼鏡、教科書の拡大、大きい文字の計算機の使用                                                          |             |
|                        | ・言葉づくり、文づくり、文章理解                                                                               | 51)         |
|                        | ・音の系列に沿って文字列としての 50 音表の書字訓練を行った                                                                | 54)55)      |
|                        | ・手書きインターフェースを備えた漢字学習支援                                                                         | 56)         |
|                        | タブレットでの漢字練習 10 字                                                                               |             |
|                        | ・アプリは「小学 3 年生 漢字ドリル」（ミライ子ども教育プロジェクト）を使用                                                        |             |
|                        | ・毎回復習する漢字の部首や構成などによる覚え方を書いているプリントを配布する（ドラえもんの学習シリーズ ドラえもんの国語おもしろ攻略 歌って書ける小学漢字 1006～ 小学館を参考に作成） |             |
|                        | 復習漢字の確認テスト                                                                                     | 57)58)      |
|                        | ・テレビ画面を使って一斉に覚え方を確認しながら解答を行う                                                                   | 59)60)      |
|                        | ・パワーポイントのスライドで問題文、漢字の順で提示。イラストを添付                                                              |             |
|                        | ・漢字はマイクロソフトの「書き順付き文字スライド」を配布した覚え方プリントと同じ色に加工し、漢字の構成を印象つける。（例:談=言→赤色・炎→青）                       |             |
|                        | ・動きを伴う活動                                                                                       |             |
|                        | 使用教材 「新版 あわせ漢字ビンゴゲーム 1（へん・つくり・かんむり・あしあそび）小学 2～3 年生の漢字(7)～漢字がたのしくなる本」教具シリーズ（7）                  |             |
|                        | ・ひらがなの習得や文章の読み、漢字の習得など読み書きの指導                                                                  |             |
|                        | 4 年生から DAISY 教科書（国語）を家庭、通級指導教室、通常学級で行う                                                         | 62)63)      |
|                        | 5 年生からは、国語と理科、社会の DAISY 教科書を使用し、当該学年の学習内容の理解を促す                                                | 64)         |
|                        | ・板書された文字を LP 学生(ボランティアの学生)がメモしてすぐ横で見せ、最初の文字(例: animal であれば a__)のみを刺激として提示                      | 66)         |
|                        | ・PC 入力の練習（代替手段の習得を目的として）→ローマ字表を近くに置き、平仮名单音入力や、練習ソフトを用いてゲーム感覚で練習                                | 69)         |
|                        | ・定着していないカタカナの確認と練習→繰り返し練習                                                                      |             |

表 8-4 学習面に関する指導・支援の対応分析結果

| IN-Child<br>Record の項目 | 指導・支援                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 資料の<br>通し番号 |
|------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 書く                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字書字練習<br/>視覚法(ノートに何度も漢字を書き写しながら覚える通常の方法)と聴覚法(構成要素の成り立ちを漢字ごとに1つの文にして暗唱しながら覚える方法)による漢字書字練習の効果を検討したうえで、漢字書字練習を行った。<br/>対象児には、「視覚法による練習で覚えることができなかった字を聴覚法で練習する」という視覚法と聴覚法を組み合わせた漢字書字練習を実施</li> <li>・漢字練習目標の10間に関しては、スクールカウンセラーと面接のある際に、数週分ピックアップしておき、グリーンの蛍光ペンでチェックする</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                           | 70)         |
|                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>①簡単なものを10問選択する</li> <li>②やや画数の多いもの、できそうなものを10問選択する</li> <li>→①と②の20問にターゲットを絞った</li> <li>②に関しては、従来の漢字ノートの升目ではなく、若干大きめのものを使用。</li> <li>なお、特に複雑な漢字については、グリッド線が示されている漢字シートを用意し、部首やつくりなどの構成を意識できるようにする</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 71)         |
|                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・標的文字をトレースする課題(以下、トレース課題)を実施した。トレース課題は、標的文字のみが薄く記された平仮名の単語を提示し、標的文字をなぞる</li> <li>・平仮名のフォントはHGP教科書体で、サイズは72ポイント</li> <li>・標的文字の色は、初めに提示する3枚は基本色25%の黒とし、次に提示する2枚は基本色15%の黒とするなど、段階的に濃度を薄くする</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 72)         |
|                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・通級指導教室に入級し、作文や計算などの苦手な課題を補う</li> <li>・宿題などの家庭学習については対象児の状態に合わせ担任が配慮</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 75)         |
|                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字「正しい漢字かきとりくん(任天堂DS)」</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 78)         |
| 計算する                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・算数では、四則演算の計算問題を少量ずつ毎日する</li> <li>・「手順書」を示す</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 5)          |
|                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>①口に出して問題文を読む</li> <li>②問題文に線を引く<br/>(分かっていること→青、条件&amp;キーワード→黄、求めるもの→ピンク)</li> <li>③数字の単位を合わせる(変換する)</li> <li>④図(物)を動かして確認する</li> <li>⑤+、-、×、÷のどれを使うか決める</li> <li>⑥式を立てる(書く)</li> <li>⑦式をとく</li> <li>⑧求める数字の単位にする(変換する)</li> <li>⑨答えを書くの9つの手順を示した。</li> <li>・「演算子表」を示す<br/>概念化・演算子の意味理解の弱さに配慮</li> <li>四則演算のキーワードとなる言葉をまとめ、図解したカードを使用</li> <li>・「言葉式」を示す<br/><math>\square = \triangle \times \bigcirc</math> (<math>\square</math>は<math>\triangle</math>の<math>\bigcirc</math>倍) と書かれたカードに当てはめながら問題を解く</li> <li>・以下の手順で指導を行う</li> </ul>                | 10)         |
|                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>①簡単な分数<br/>粘土を切って量ることから出発し、分けることの体験から分数を実感的に理解させる</li> <li>②分母と分子<br/>分母と分子を絵で表現して、分母と分子がもつ意味を視覚的に知らせる<br/>絵カードを組み合わせて分数が表せたイメージと読み方を考えさせる</li> <li>③分数の足し算・引き算<br/>式と式を絵で表現した計算式のカードを使って、計算の仕方をわかりやすく示す<br/>視覚的な手掛かりとして、記号に着目させることによって、計算の仕方を習得させる</li> <li>④分数と少数・整数の関係<br/>1本の拡大した数直線の上に分数と少数、整数の相対位置を表してわかりやすく示す</li> <li>⑤等しい分数<br/>1つのものを感覚的に分けることを通して、大きさの等しい分数を実際に作ってみる</li> <li>⑥約分と通分<br/>式と式を絵で表現したカードを使って、約分・通分の仕方をわかりやすく示す<br/>使用頻度の高い素数の倍数表を使って、約分・通分との関係を視覚的に示す</li> <li>⑦分数の掛け算・割り算<br/>折り紙を分けることを通して、分数の掛け算と割り算の計算を実際に操作してみる</li> </ul> | 17)18)      |

表 8-5 学習面に関する指導・支援の対応分析結果

| IN-Child<br>Record の項目 | 指導・支援                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 資料の<br>通し番号            |
|------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------|
| 計算する                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習アプリ モンサクン</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 19)20)                 |
|                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚教材による整数及び少数の乗除法の指導（個別指導）<br/>啓林館の算数科の教科書を参考に、同時処理対応、継次処理対応、及び自由記述の3種類のプリントを開発し、閉じ問題で方略別に問題解決に取り組めるようにする</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                             | 21)22)                 |
|                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・数学 基礎的な計算スキルを身につけることに重点<br/>例題において基本的な解法について学んだ後、類題や発展問題に取り組ませる</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                       | 40)                    |
|                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・3C(Copy-Cover-Compare)学習法: タイムトライアル(30秒、2の段、3の段、4の段)<br/>3C学習法用シートを使用し、5つの手順で実施<br/>①左の列の掛け算の問題と解答を3回読む<br/>②シートの左端を折って問題と解答を隠す<br/>③隠した状態で問題と解答を暗唱して○を記入<br/>④隠した状態のまま、右の列の四角の中に問題と解答を書く<br/>⑤最後に隠していた問題と解答を再び見て、書いた問題と解答の正誤を確認<br/>5つの手順の途中で誤答をした場合は、もう一度やり直すように指示し、それでも誤答をする場合はやり方をもう一度見せてから模倣させる<br/>3Cとは、Copy-Cover-Compareの略である</li> </ul> | 47)48)                 |
|                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・器具の使用:拡大鏡、プリズム眼鏡、教科書の拡大、大きい文字の計算機の使用</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 50)                    |
|                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・増える減るの理解、+・-の理解、答えが5までの文章題の立式</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 51)                    |
|                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・DAISY教科書を利用した算数の学習補充</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 64)                    |
|                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・九九練習<br/>曖昧になっている段を確認した後、その段を集中的に練習。その際に「しちしち」ではなく「なななな」など読み方を変えるように指導</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                | 69)                    |
|                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・通級指導教室に入級し作文や計算などの苦手な課題を補う</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 75)                    |
|                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・宿題などの家庭学習については対象児の状態に合わせ担任が配慮</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                        |
|                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・計算プリントやICTソフトを活用</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 77)                    |
|                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・算数「ランドセル（がくげい PC ソフト）」、「インターネット上の無料算数教材」</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 78)                    |
|                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・第4回の個別指導<br/>1桁の文章問題にする<br/>演算決定の練習（4種類を一度に提示、すべて同じ数字の組み合わせ、演算記号カードの使用、理由の説明）</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                         | 79)                    |
|                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・第5、6回の個別指導<br/>2桁と1桁の文章問題にする<br/>演算決定の練習（2種類を一度に提示、演算記号カードの使用、絵や図を書き理由の説明）</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                            |                        |
| 推論する                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章を読む際に5W1Hに分けて抽出する</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 11)12)13)<br>14)15)16) |
|                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習アプリ モンサクン</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 19)20)                 |
|                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章構成課題</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 37)                    |
|                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章構成課題を通して、文章を構成する全段階である要素の想起を練習</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 38)                    |
|                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・例題において基本的な解法について学んだ後、類題や発展問題に取り組ませる</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 40)                    |
|                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・スリーヒントなど<br/>先生がなぞなぞを作って出したり、あるいはこれについてどういうカテゴリーがあるかなということを子どもに聞いたりしながら、なぞなぞ作りなど行う</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                    | 46)                    |
|                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ことばのまねっこ遊び、お使い遊び、時系列の理解のための食事メニューのお話</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 51)                    |
|                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ルビを隠して本を音読した際に、音読できなかった漢字単語や意味の分からなかった単語を抜き出して、その単語の音読と意味理解(例：単語の意味を言う、その単語を使った文を作る)の双方をできるようにする</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                      | 70)                    |
|                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題文の構成を分類し、出来事文と質問文に分けるなど意味を理解させる</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 77)                    |
|                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・第4回の個別指導 1桁の文章問題にする<br/>演算決定の練習（4種類を一度に提示、すべて同じ数字の組み合わせ、演算記号カードの使用、理由の説明）</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                             | 79)                    |
|                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・第5.6回の個別指導 2桁と1桁の文章問題にする<br/>演算決定の練習（2種類を一度に提示、演算記号カードの使用、絵や図を書き理由の説明）</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                |                        |

### 3. 実態把握の方法

実態把握について、記載されている事例が 62 件、記載されていない事例が 17 件であった。

記載されている事例のうち、客観的な評価ツールを使用している事例が 47 件であった。うち、ほとんどが心理分野の指標であった。主な評価指標については、WISC-Ⅲが 27 件、STARW が 14 件、K-ABC が 10 件、ITPA、SCTAW、ROCFT が 5 件などであった。他、実態把握の際に使用された検査一覧を表 9 に示す。

その他には、テストを行っている事例が 14 件、50 音の読み書きチェックリストなど作成し、チェックを行っている事例が 4 件であった。保護者からの聞き取りを実施している事例もみられた。

表 9 学習面に関する指導・支援の対応分析結果

| 科学的指標                                     | 内容                                                                                                                                           | 論文<br>件数 |
|-------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|
| WISC-Ⅲ                                    | 知能検査診断。個別式の検査法で、測定された知能の内容を分析し診断的に理解する。                                                                                                      | 27 件     |
| STARW                                     | 小学校の読み書きスクリーニング検査。発達性読み書き障害を診断評価するために必要な学習到達<br>度検査。                                                                                         | 14 件     |
| K-ABC                                     | 個別認知検査。子どもの知的能力を、認知処理過程と知識・技能の習得度の両面から評価し、得意<br>や認知処理様式を見つける。                                                                                | 10 件     |
| ITPA                                      | 言語学習能力検査。聴覚－音声、視覚－運動の 2 つの回路、受容、連合、表出の 3 つの過程、表象、<br>自動の 2 つの水準からなる臨床モデルに基づき、子どもの言語学習能力を測定する。                                                | 5 件      |
| SCTAW                                     | 抽象語理解力検査。日本ではじめての抽象語のみを刺激とした言語理解検査。特に軽度の言語理解<br>障害を検出するのに鋭敏。聴覚、言語発達遅滞、学習障害児、自閉症、失語症、痴呆例に適用でき<br>る。健常時の言語発達を測定するのにも適用できる。                     | 5 件      |
| ROCFT                                     | Rey の複雑図形検査。脳損傷患者の視覚構成能力や視空間記憶を評価するために、1940 年代に<br>Rey(1941)によって考案され、Osterrieth(1944)によって標準化されたテスト。                                          | 5 件      |
| LDI-R                                     | LD 判断のための調査票。教育現場、相談所、専門機関などでの LD 判断のための資料として役立<br>つ。学習や行動面で気がかりな子どもがいたり、保護者から相談を受けたりしたときに利用できる。                                             | 4 件      |
| TK 式読み<br>能力検査                            | 多くの教科の学習に必要とされている読み能力を、「語識別」「文理解」「文章記憶」「推論」の 4 つ<br>の因子に分けて測定している。学業不振の大きな要因である言語的能力の遅れを早期に発見できる。                                            | 4 件      |
| WISC-Ⅳ                                    | 知能診断検査。WISC-Ⅲ知能検査の改訂版。今回の改訂では、3 つの下位検査が削除され、新しい<br>下位検査が 5 つ取り入れられるなど、検査の構成が大きく変わった。WISC-Ⅳでは、10 の基本検査<br>から全検査 IQ と 4 つの指標得点の算出が可能となった。      | 4 件      |
| MIM-PM                                    | 多層指導モデル MIM。“読み”につまずきを示す LD など、学習面に困難さのある子どもたち。な<br>かでも、“初期の読み”において、最大の難関のひとつの特殊音節に焦点を当て、文字や語句を正し<br>く読んだり書いたり、なめらかに読んだりできることを目指すパッケージ。      | 4 件      |
| PVT-R                                     | 絵画語彙発達検査。語の理解力の中でも特に基本的な「語いの理解力」の発達度を短時間に正確に<br>測定する。保育所、幼稚園、小学校ばかりでなく教育センターや研究機関などで、言葉や知的発達<br>の遅れ、LD(学習障害)といった特別支援教育を必要とする子どもの早期発見と指導に役立つ。 | 4 件      |
| NRT                                       | 教研式算数標準学力検査。全国標準に照らして学力の相対的な伸びや差を客観的に把握できる。                                                                                                  | 3 件      |
| ベントン視覚<br>記録検査                            | 図版記録の検査。アルツハイマー病や麻痺、外傷など器質的脳障害の神経心理学的スクリーニング<br>などに用いられる、図版記録の検査。                                                                            | 3 件      |
| Auditory-Verbal<br>Learning<br>Test(AVLT) | 聴覚言語性学習検査。言語性記憶を評価できる検査法のひとつ。即時記憶容量、学習曲線、前方干<br>渉・後方干渉、作話傾向、時間的順序記憶、再認・自由再生の差異などの評価が可能。                                                      | 3 件      |
| DN-CAS                                    | 認知機能領域の測定。Luria の神経心理学モデルから導き出された J.P.Das による知能の PASS 理<br>論を基礎とする、新しい心理検査。理論に基づいた子どもの認知処理過程の特徴理解と支援への応<br>用に活用できる。                          | 2 件      |
| RCPM                                      | レーヴン色彩マトリックス検査。スピアマンの一般知能因子を測定するために開発された簡易知能<br>検査。失語症・認知症の検査として広く利用されている。                                                                   | 2 件      |
| DTVP                                      | フロスティグ視知覚発達検査。保育所、幼稚園、小学校低学年の子どもの視知覚上の問題点を発見<br>し、適切な訓練を行うための検査。問題行動、ろう、難聴、脳性小児まひ、知的障害、情緒障害、<br>LD(学習障害)などの子どもにも実施できる。個別・集団いずれの方法でも行える。      | 2 件      |
| CRT-Ⅱ                                     | 標準学力検査。「基礎的・基本的な内容」の定着状況を適切に把握できるように作成された検査。児<br>童・生徒一人ひとり、学年、学校、地域として、基礎学力の定着状況を十分な合理性と客観性をも<br>って把握できるように作成されている。                          | 2 件      |
| ADHD-RS                                   | ADHD 評価スケール。                                                                                                                                 | 1 件      |
| ADHD-RS4                                  | ADHD 評価スケール。世界共通の診断基準 DSM-Ⅳを基に、ADHD の診断のために開発され、全<br>米での大規模な調査から検討がなされている。米国で何百人もの臨床医や研究者が採用しており、<br>ADHD の的確な新法にや効果的な治療法の確定に役立つものである。       | 1 件      |

## IV. 考察

### 1. 身体面・情緒面に関する指導・支援について

身体面に関する指導・支援については、「身体の状態」においては不安を解消するような指導・支援、「姿勢・運動・動作」に関しては身体を使って文字を学習する指導・支援が見られた。

情緒面に関する指導・支援については、「不注意」は注意がそれないようにカーテンを閉めたり、空き教室を利用した放課後の支援など環境設定が中心となっていた。「多動性・衝動性」、「こだわり」については指導・支援が見られず、「自己肯定感」については、肯定的な声掛けやトークンエコノミーなどがみられた。特に、身体面・情緒面の中で、自己肯定感についての指導・支援が17件と多く見られた。

「身体の状態」や「自己肯定感」に関連した研究として、小枝(2001, 2002)は、鳥取県での別室登校を含む不登校の児童生徒を対象に、LD児の出現率を調査した研究がある。その結果、小学校で34.5%、中学校で59.5%という結果を残している。また、星野ら(1993)は、LD児が2次的な障害により、学校不適応などを引き起こす原因として、1つ目にストレスや欲求不満状況に対する体制や抵抗力の低さをあげ、2つ目に学習困難のために親や教師の評価が低くなり、過度の干渉や叱責を受けやすいことを挙げている。

今回の結果では、「身体の状態」に関して、腹痛症状や、不安を感じている事例がいくつかみられた。それらにおいても、学習上のストレスや家庭の影響があると考えられる。つまり、LD傾向のあるIN-Childに対して、学習に関連した指導・支援を行う場合は慎重に行わなければならない。

### 2. 学習面に関する指導・支援について

学習面に関する指導・支援については、「読む」、「書く」、ICT機器の活用、言語聴覚士などの専門機関との連携、拡大鏡やプリズム眼鏡などの器具の使用がみられた。

また、それぞれ見てみると、「読む」に関する指導・支援については、教科書やテストの問題文にフリガナをふったり、分かち書きにしたりなどの配慮、音節を手で数えて読む指導が見られた。「書く」に関する指導・支援については、マス目を大きくしたりする支援や、それぞれの認知方法に合わせて視覚法・聴覚法を取り入れるなどが見られた。また、口頭でテストをするなどの配慮をしている事例が見られた。

分かち書きなどの支援や音節を手で数えて読む指導や、マス目を大きくするなどの書く指導は、比較的簡単にできる支援であり、LD傾向の児童生徒以外に対しても活用できる。例に出すと、富永・池本・石川ら(2013)の事例でもあったように、それぞれの読みの状態に応じて、漢字を平仮名に変えたり、内容を変えずに文章量を減少させたりする教材を作成し、クラス全体の児童生徒で共有することは、LD傾向のIN-Childに限らないクラス全体の読みの支援を行うことができる(大須賀, 2016)。

また、そういう指導・支援をクラス全体でしていく中で、それでも別の方法が必要なIN-Childに対しては、ICT機器の活用(読みに関しては、DAISY教科書を使用した読みの支援、書くに関しては液晶ペンタブレットを用いた漢字学習支援システム)や、言語聴覚士などの専門機関との連携、拡大鏡やプリズム眼鏡などの器具の使用を検討していく必要がある。

「計算する」「推論する」についても、共通してICT機器の活用(学習アプリモンサクン

19)20))が見られた。

また、それぞれ見てみると、「計算する」に関する指導・支援については、手順書や演算子表を用いた指導が見られた。「推論する」に関する指導・支援については、文の構成を5 W1Hに分けて抽出し、文章構成をとらえ、意味理解につなげる指導が見られた。

これらにおいても、手順書や演算子表、文の構成を5 W1Hにわけてとらえる指導は、クラス全体の指導・支援につなげることができる。また、算数が苦手な IN-Child を何名か抽出し、個別に算数に関する指導を行っているケースもいくつか見られた(野田・松見, 2014)。別の支援が必要な IN-Child に対しては、数名でグループを作り指導していくこと、それでも難しい場合は、ICT 機器を活用することが望ましいと考えられる。グループを作り指導していくことは、学習にストレスを感じやすい IN-Child にとっては、効果的であると考えられる。実際、不登校の多い LD 等の通級指導教室の中で、国語と算数の支援を実施した結果、不登校が0になる事例も見られた(今西・芳倉・川西ら, 2012)。

LD 傾向のある IN-Child に対しては、それぞれの児童の困難さに合わせた指導をしていく必要はあるが、苦手な部分を繰り返し取り組ませるより、むしろ得意なところを使って理解を進めていくことが有効である(佐々木, 2007)。学習に関する段階的な指導を行いながら、分からないところは、教師や周りの友達に聞くことができるような環境作りをし、情緒面への負担を軽減していく必要があるだろう。

## 文献

- 1) 韓昌完・太田麻美子・權偕珍(2016) 通常学級に在籍する IN-Child (Inclusive Needs Child: 包括的教育を必要とする子) Record の開発. *Total Rehabilitation Research*, 3, 84-99. doi: 10.20744/trr.3.0\_84
- 2) 山元翔・平嶋宗(2013) 特別支援学級でのモンサクンを用いた作問学習実践事例. 教育システム情報学会誌, 30(4), 243-247. doi: 10.14926/jsise.30.243
- 3) 阿部愛・有川宏幸・長谷川拓人・上野智尋・林豊彦(2015) iPad を使用した読み書き困難児への漢字指導の有効性に関する研究. 新潟大学教育学部研究紀要, 7(2), 207-217.
- 4) 韓昌完・矢野夏樹・小原愛子・權偕珍・太田麻美子・田中敦士(2017) IN-Child Record の信頼性及び構成概念妥当性の検証—横断データを用いた分析—. *Total Rehabilitation Research*, 5, 1-14. doi: 10.20744/trr.5.0\_1
- 5) 文部科学省(2012) 共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進(報告).
- 6) 小枝達也(2001) 発達面からみた心身症および学校不適応の病態. 日本小児学会雑誌, 105(12), 1332-1335
- 7) 小枝達也(2002) 心身の不適応行動の背景にある発達障害. 発達障害研究, 23(4), 258-266.
- 8) 星野仁彦・増子博文(2013) 学習障害児に見られる二次的情緒障害の発症要因に関する検討. 小児の精神と神経, 33(2), 145-154.

- 9) 富永由紀子・池本喜代正・石川泰子・押野ゆき子・高橋里子・田島成子・青柳都己代・加藤麻未(2013) 学習障害児に対する個別学習支援の在り方に関する一考察—大学におけるセッション指導から—. 宇都宮大学教育学部 教育実践総合センター紀要, 36, 339-346.
- 10) 大須賀豊子(2016) 通常学級における軽度発達障がい児支援とユニバーサルデザイン教育の試み. 帝京科学大学教職指導研究, 1(1), 143-150.
- 11) 野田航・松見敦子(2014) 小学2年生の掛け算スキルの流暢性の向上を目指した応用行動分析的指導の効果 —Cover-Copy-Compare の応用—. 特殊教育学研究, 52(4), 287-296. doi: 10.6033/tokkyou.52.287
- 12) 今西満子・芳倉優富子・川西光栄子・小山ありさ・玉村公二彦(2012) 発達障害のある児童の不登校傾向への対応に関する検討 —LD 等通級指導教室における事例から—. 奈良教育大学 教育実践開発研究センター研究紀要, 21, 203-208. doi: 10.6033/tokkyou.52.287
- 13) 佐々木徳子(2007) LD 児の理解. 大南英明・緒方明子・吉田昌義編著. 特別支援教育基礎論. 放送大学教育振興会

#### 〈分析対象文献〉

- 1) 後藤沙織(2012) ひらがなの読み指導と習得過程について. 東北福祉大学研究紀要, 36, 125-133.
- 2) 野村美佐子(2012) マルチメディア DAISY を活用した電子教科書. 情報の科学と技術, 62(5), 203-208.
- 3) 藤平いずみ(2012) 中学校における特別支援教育コーディネーターを中心とした通常の学級に在籍する生徒支援の在り方 —放課後学習支援教室を通して—. 帝京大学教職大学院年報, 3, 119-120.
- 4) 今西満子・芳倉優富子・川西光栄子・小山ありさ・玉村公二彦(2012) 発達障害のある児童の不登校傾向への対応に関する検討 —LD 等通級指導教室における事例から—. 奈良教育大学 教育実践開発研究センター研究紀要, 21, 203-208.
- 5) と同様
- 6) 朝来野和歩・衛藤裕司(2012) 学習障害のある小学生の文章の音読に関する研究 —サイトワードによる指導の効果. 大分大学教育福祉科学部附属教育実践総合センター紀要, 30, 1-14.
- 7) 川上弘純・山口栄一(2012) 書字困難の生徒に対するノートテイキングの支援と効果 —キーワードマップを用いた2年間のノートの分析—. 06 論叢 玉川大学教育学部紀要, 113-131.
- 8) 岩永久子・綿巻徹・笹山龍太郎(2012) 読みに困難のある児童への読みの指導の実践研究. 教育実践総合センター紀要, 11, 289-298.
- 9) と同様



- 10) 宇田川真智子・松本秀彦(2012) LD 傾向のある児童における算数文章題指導—COMPASSによる躰きの分析に基づく文章概念化を援助する教材を用いて—. 作大論集, 2, 249-260.
- 11) 富永由紀子・池本喜代正・石川泰子・押野ゆき子・高橋里子・田島成子・青柳都己代・加藤麻未(2013) 学習障害児に対する個別学習支援の在り方に関する一考察—大学におけるセッション指導から—. 宇都宮大学教育学部 教育実践総合センター紀要, 36, 339-346.
- 12) 11)と同様
- 13) 11)と同様
- 14) 11)と同様
- 15) 11)と同様
- 16) 11)と同様
- 17) 熊谷恵子(2013) 学習障害児の算数障害の研究—数概念と分数概念の獲得について—. 科学研究費助成事業 (科学研究費補助金) 研究成果報告書. 22531057.
- 18) と同様
- 19) 山元 翔・平嶋 宗(2013) 特別支援学級でのモンサクンを用いた作問学習実践事例. 教育システム情報学会誌, 30(4), 243-247. doi: 10.14926/jsise.30.243
- 20) と同様
- 21) 小崎記子・笹山龍太郎・線巻徹(2013) 視覚的支援を活用した算数科指導の実践研究. 教育実践総合センター紀要, 12, 287-296.
- 22) と同様
- 23) 園田貴章・井上朋美・岡崎泰久(2013) 漢字書字困難児に対する指導法の開発 —液晶ペンタブレットを用いた漢字学習支援システム—. 佐賀大学教育実践研究, 30, 63-68.
- 24) 井上芳郎・濱田滋子(2013) アクセシブルなデジタル教科書 (マルチメディア版 DAISY) 製作と普及活動の報告. 日本デジタル教科書学会年次大会発表原稿集, 43-44.
- 25) と同様
- 26) 戸高翼・天辰雅子・山田弘幸(2013) 特別支援教育における教員と言語聴覚士との連携—発達性読み書き障害の1例を通して—. 九州保健福祉大学研究紀要, 14, 135-141.
- 27) 渡部舞・荻田知則・岸田直也・石丸利恵・龍海咲(2013) 読み書き困難児における ICT を用いた学習支援の検討. 日本教育情報学会 年会論文集, 29, 394-397.
- 28) 増田佐和子・鶴岡弘美・臼井智子・石川和代(2013) 難聴を疑われて発達性読み書き障害が判明した1症例. *Audiology Japan*, 56, 283-290. doi: 10.4295/audiology.56.283
- 29) 阿子島茂美・漆澤恭子・三枝隆(2013) 読み書き障害の支援方法. 教心第 55 回総会, 406.
- 30) と同様
- 31) 瀬底正栄(2013) 複数の他者との関係性に焦点を当てた発達支援の試み:特別支援学級への通級指導を通して. 琉球大学教育学部発達教育実践センター紀要, 4, 105-117.
- 32) 芦谷道子・土井直・友田幸一(2013) 不注意の問題を伴う小児機能性難聴の知的側面の解析. 音声言語医学, 54, 245-250. doi: 0.5112/jjlp.54.245
- 33) 押田正子・川崎総大(2013) 通常小学校において理解と活用が望まれる発達性読み書き障害児への支援の在り方 —発達性 dyslexia 児に対する大学教育相談を通じて—. 富山大学人間発達科学研究実践総合センター紀要 教育実践研究, 7, 27-32.

- 34) 橋本創一・岡直樹・中島範子・磯貝順子(2014) 学習のつまずきと学校適応に関するアセスメント・支援方法 ―学習支援と学校不適応へのサポートを考える―. 教心第 56 回総会, 48.
- 35) 竹森亜美(2014) 通常学級に在籍する書字困難児が抱えるつまずきの実態把握. 立教大学臨床心理学研究, 8, 13-22. doi: 10.14992/00008997
- 36) と同様
- 37) 35)と同様
- 38) 35)と同様
- 39) 樋熊一夫・大庭重治・石田脩介・八島猛・葉石光一(2014) 漢字の書字学習が困難な生徒を対象とした ICT 活用による学習支援システムの構築. 上越教育大学特別支援教育実践研究センター紀要, 20, 33-37.
- 40) 中山健(2014) センチメンタル・ジャーニー. 福岡教育大学紀要, 63(4), 181-198.
- 41) 長田三也・松田真幸(2014) 読み困難児への読み指導に関する実践的研究―マルチメディア DAISY の導入から始めた指導実践―. 作新学院大学 作大論集, 4, 141-162.
- 42) 小枝達也・関あゆみ・田中大介・内山仁志(2014) RTI (response to intervention) を導入した特異的読字障害の早期発見と早期治療に関するコホート研究. 脳と発達, 46(4), 270-274. doi: 10.11251/ojjsn.46.270
- 43) 新島まり・平井みどり・中山健(2014) 通常の学級における COGENT プログラム適用に関する研究. 福岡教育大学紀要, 63(4), 167-179.
- 44) 43)と同様
- 45) 43)と同様
- 46) 山下公司(2014) 読み書き困難のある児童を支援する個別・小集団の指導. 子ども発達臨床研究, 6, 115-124.
- 47) 野田航・松見敦子(2014) 小学 2 年生の掛け算スキルの流暢性の向上を目指した応用行動分析的指導の効果 ―Cover-Copy-Compare の応用―. 特殊教育学研究, 52(4), 287-296. doi: 10.6033/tokkyou.52.287
- 48) と同様
- 49) 入山満恵子(2014) 読み書きに特異的な困難さを持つ子どもへの学習支援 ―年長から 6 年生までの経過―. 新潟大学教育学部研究紀要, 7(2), 389-398.
- 50) 平島ユイ子(2014) さあ！ここから始めよう。学習障害児の教育指導における目の配慮. 日本視能訓練士協会誌, 43, 29-33.
- 51) 平井みどり・高倉稔恵・納富恵子・中山健(2014) COGENT の考え方を踏まえたインフォーマルアセスメントの指導への適用―1 年 A 児の「読み」の指導を通して―. 特別支援教育センター研究紀要, 6, 15-33.
- 52) 阿部愛・有川宏幸・長谷川拓人・上野智尋・林豊彦(2015) i Pad を使用した読み書き困難児への漢字指導の有効性に関する研究. 新潟大学教育学部研究紀要, 7(2), 207-217.
- 53) と同様
- 54) 宇野彰・春原則子・金子真人・後藤多可志・栗屋徳子・狐塚順子(2015) 発達性読み書き障害児を対象としたバイパス法を用いた仮名訓練―障害構造に即した訓練方法と効果および適応に関する症例シリーズ研究―. 音声言語医学, 56, 171-179. doi: 10.5112/jjlp.56.171

- 55) と同様
- 56) 岡崎奏久・井上明美・中村理美・渡部健次・園田貴章(2015) 書字困難児童の学習特性に  
適応した手書き漢字学習支援ツールの開発と評価.電子情報通信学会論文誌, 98(1), 42-  
51.
- 57) 出口康子・西川崇・吉田ゆり(2015) 通級指導教室における書字指導の実践 ―小集団指  
導でのタブレット PC 活用を通して―. 教育実践総合センター紀要, 14, 263-272.
- 58) と同様
- 59) 57)と同様
- 60) 57)と同様
- 61) 末永智美・綱谷綾香(2015) 二次障害を抱える学習障害児に対する遊戯療法的アプローチ  
―小学 5 年男児の事例を通して―.佐賀大学教育実践研究, 28, 91-102.
- 62) 芳倉優富子・玉村公二彦(2015) 読み書き障害児への支援としての DAISY の活用―通級  
指導教室の指導と通常学級での指導との連携を通して―. 次世代教員養成センター研究  
紀要, 1, 303-309.
- 63) 62)と同様
- 64) 62)と同様
- 65) 稲田八穂・難波博孝(2015) 「情動」に働きかける読み聞かせの実践 ―「排泄」をテー  
マにした読み聞かせのケーススタディー. 読書科学, 57(3-4), 89-100. doi:  
10.19011/sor.57.3-4\_89
- 66) 鈴木静香・織田安沙美・大西将史・廣澤愛子・笹原未来・松木健一(2016) 地域組織間連  
携による学校支援ボランティア事業の支援体制づくり ～非専門家(大学生)を支える発  
達障害支援アドバイザーの活動実践を事例として～. 福井大学教育実践研究, 41, 37-49.
- 67) 各務哲人(2016) 小学校通常学級における読みにつまずく可能性のある児童の早期発見  
と具体的支援. 教育実践高度化専攻成果報告書抄録集, 6, 115-120.
- 68) と同様
- 69) 入山満恵子(2016) 読み書きに困難さを持つ LD 児への学習支援 小学 6 年時一年間の指  
導の経過. 新潟大学教育学部研究紀要, 8(2), 193-201.
- 70) 三益亜美・宇野彰(2016) 学校関係者に難聴を疑われたことのある発達性読み書き障害児  
1 例の認知能力 ―発達性読み書き障害の専門家と耳鼻咽喉科との連携について―. 音  
声言語医学, 57, 312-320. doi: 10.5112/jjlp.57.312
- 71) 岩瀧大樹・山崎洋史(2016) スクールカウンセラーによる LD 傾向の男子中学生への援助  
事例研究:学習サポートおよび学級担任とのコンサルテーションを中心に. 教職研究, 28,  
47-59. doi: 10.14992/00012205
- 72) 須藤邦彦・宮野玲子(2016) 通級指導教室における平仮名の書字に困難を示す LD 児に  
対する支援の検討 ―エラーパターンに沿った数量的な判読性の評価基準を活かした支  
援の効果から―. 行動分析学研究, 1, 15-29. doi: 10.24456/jjba.31.1\_15
- 73) 都築繁幸・兵藤義信・伊藤ゆかり・牧野忠和・牧野恒夫・水野清彦・水鳥正美・武藤敬  
治・長屋典子・野本宏奈・佐藤理美・白井快典(2016) 通級指導教室と通常の学級の連携  
による支援 ―通級指導教室対象児の校外学習の指導を中心に―. 障害者教育・福祉学研  
究, 12, 87-98.

- 74) 早田聡宏・東晃子・中村みゆき・中西大介・西田寿美(2016) 学習障害, 注意欠如・多動性障害および母子密着を背景とした長期不登校児童への入院治療—あすなろ学園での18カ月間の療育のかかわりと経過—. 児童青年精神医学とその近接領域, 57(5), 808-828. doi: 10.20615/jscap.57.5\_808
- 75) 天野菜穂子・宮本正一(2017) WISC-IVの検査場面におけるインフォーマルアセスメントの重要性— 母親から離れられず不登校傾向にある子どもの事例を通して —. 中部学院大学・中部学院大学短期大学部 教育実践研究, 2, 129-138.
- 76) 高橋由子・松本秀彦・寺田信一(2017)読み書き困難児童に対するフラッシュカードによる読み指導の効果. 高知大学教育実践研究, 31, 55-63.
- 77) 伊藤昌夫・原田浩司(2017) 個のニーズに応じた学習支援の在り方†—小学校における組織的支援の生成—. 宇都宮大学教育学部教育実践紀要, 3, 545-550.
- 78) と同様
- 79) 井上早矢・遠藤清香(2017) 算数に苦手意識を持つ児童への特別な支援の効果—個別指導を通して自己効力感を高める—. 山梨学院短期大学研究, 37, 29-39

ORIGINAL ARTICLE

# Analysis of Teaching Method for the Inclusive Needs Child Showing Behavior Similar to Specific Learning Disorder

Mamiko OTA<sup>1)2)</sup> Tomoharu INOUE<sup>1)</sup> Eonji KIM<sup>3)\*</sup>

1) Faculty of Education, University of the Ryukyus

2) Graduate School of Medicine, Tohoku University

3) Disability Services Center, Miyagigakuin Women's University

## ABSTRACT

IN-Child Record was developed as a tool to diagnose children who need inclusive education, and has a total of 82 items in fourteen domains. By analyzing teaching practices in scholarly treatise, in fourteen domains of IN-Child Record. This study aimed to typifying teaching methods which doing educational site for IN-Child similar to Specific Learning Disorder.

As a result, Three Necessity revealed as teaching methods for IN-Child similar to Specific Learning Disorder.

①When conducting learning guidance, it is necessary to consider IN-Child's stress,

②It is necessary to prepare special teaching materials (less kanji etc.) and support reading of the entire class not limited to IN-Child. In addition, if it is still difficult to solve, it is necessary to rely on specialized agencies (speech-language-hearing therapist etc.),

③While doing step-by-step education on learning, it is necessary to create an environment that allows teachers and surrounding friends to ask to things IN-Child do not understand, and to reduce the burden on mental aspects.

### < Key-words >

Inclusive Needs Child(IN-Child), IN-Child Record, Specific Learning Disorder, teaching method

\*Corresponding Author: 622totoro@gmail.com (Eonji KIM)

Total Rehabilitation Research, 2018, 6:45-72. © 2018 Asian Society of Human Services

Received

March 7, 2018

Revised

April 19, 2018

Accepted

April 27, 2018

Published

June 30, 2018



# Total Rehabilitation Research

## EDITORIAL BOARD

### EDITOR-IN-CHIEF

Masahiro KOHZUKI Tohoku University (Japan)

### EXECUTIVE EDITORS

Changwan HAN University of the Ryukyus (Japan)



**Aiko KOHARA**  
University of the Ryukyus (Japan)

**Daisuke ITO**  
Tohoku Medical Megabank Organization (Japan)

**Eonji KIM**  
Miyagigakuin Women's University (Japan)

**Giyong YANG**  
Pukyong National University (Korea)

**Haejin KWON**  
University of Miyazaki (Japan)

**Hitomi KATAOKA**  
Yamagata University (Japan)

**Hyunuk SHIN**  
Jeonju University (Korea)

**Jin KIM**  
Choonhae College of Health Sciences (Korea)

**Kyoko TAGAMI**  
Aichi Prefectural University (Japan)

**Makoto NAGASAKA**  
KKR Tohoku Kosai Hospital (Japan)

**Masami YOKOGAWA**  
Kanazawa University (Japan)

**Megumi KODAIRA**  
International University of Health and Welfare  
Graduate School (Japan)

**Minji KIM**  
National Center for Geriatrics and Gerontology  
(Japan)

**Misa MIURA**  
Tsukuba University of Technology (Japan)

**Moonjung KIM**  
Korea Labor Force Development Institute for the aged  
(Korea)

**Shuko SAIKI**  
Tohoku Fukushi University (Japan)

**Suguru HARADA**  
Tohoku University (Japan)

**Takayuki KAWAMURA**  
Tohoku Fukushi University (Japan)

**Yoko GOTO**  
Sapporo Medical University (Japan)

**Yongdeug KIM**  
Sung Kong Hoe University (Korea)

**Yoshiko OGAWA**  
Teikyo University (Japan)

**Youngaa RYOO**  
National Assembly Research Service: NARS  
(Korea)

**Yuichiro HARUNA**  
National Institute of Vocational Rehabilitation  
(Japan)

**Yuko SAKAMOTO**  
Fukushima Medical University (Japan)

**Yuko SASAKI**  
Sendai Shirayuri Women's College (Japan)

### EDITORIAL STAFF

### EDITORIAL ASSISTANTS

Mamiko OTA Tohoku University / University of the Ryukyus (Japan)

Sakurako YONEMIZU University of the Ryukyus (Japan)

as of April 1, 2018

---

# Total Rehabilitation Research

## VOL.6 June 2018

© 2018 Asian Society of Human Services

Presidents | Masahiro KOHZUKI & Sunwoo LEE  
Publisher | Asian Society of Human Services  
#216-1 Faculty of Education, University of the Ryukyus, 1, Senbaru, Nishihara, Nakagami, Okinawa,  
903-0213, Japan  
FAX: +81-098-895-8420 E-mail: ashs201091@gmail.com  
Production | Asian Society of Human Services Press  
#216-1 Faculty of Education, University of the Ryukyus, 1, Senbaru, Nishihara, Nakagami, Okinawa,  
903-0213, Japan  
FAX: +81-098-895-8420 E-mail: ashs201091@gmail.com

# Total Rehabilitation Research

VOL.6 June 2018

## *CONTENTS*

### ORIGINAL ARTICLES

---

Intervention Through Nutrition Improvement and Exercise Programs of Multi-professional  
Collaboration for Users of Fee-based Assisted Living Homes for the Older People

**Yuko FUJIO**, et al. 1

Analysis of Factors Affecting the Teaching of Children with Needs for Listening Ability:  
Focusing on Attention Deficit / Hyperactivity Disorder Traits in IN-Child Record

**Aiko KOHARA**, et al. 14

Effects of Psychological Factors on Exercise Capacity for Patients with Peripheral Artery Disease

**Kyousuke EHARA**, et al. 22

The Verification of Content Validity of Scale for Coordinate Contiguous Career

**Chisato NUMADATE**, et al. 33

Analysis of Teaching Method for IN-Child Showing Behavior Similar to Specific Learning Disorder

**Mamiko OTA**, et al. 45

### ACTIVITY REPORT

---

Effects of Watching Favorite Video during Exercise on Exercise Economy and Autonomic Activity  
: A Pilot Study with Healthy Adults

**Reika KUDO**, et al. 73

Published by  
Asian Society of Human Services  
Okinawa, Japan